

Social and Environmental Report

社会・環境報告書

2018

この製品を  
使っています!!

酢酸ビニル樹脂系  
エマルジョン形接着剤  
木工用速乾

【用途】木・布・紙の接着




表紙の写真に掲載の作品は、子供たちが当社の製品を使って作りました。



セメダイン株式会社

- 本社、〒141-8620
- 東京事業所 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー  
☎ (03) 6421-7411
- 大阪事業所 〒542-0081  
大阪府大阪市中央区南船場1-16-10 大阪岡本ビル  
☎ (06) 4964-5330
- 名古屋事業所 〒460-0008  
愛知県名古屋市中区栄2-3-1 名古屋広小路ビルヂング  
☎ (052) 218-5316
- 札幌営業所 ☎ (011) 271-4929
- 仙台営業所 ☎ (022) 287-3611
- 福岡営業所 ☎ (092) 432-7520

<https://www.cemedine.co.jp/>

商品に関するお問い合わせ先: 接着技術相談センター  
☎ 0120-58-4929 (土曜日・休日を除く 10:00~12:00、13:00~17:00)

# 私たちセメダインは、 つける技術で社会に貢献します。

当社の社名であるセメダインは、おかげさまで今日においても広く皆様に親しまれております。セメダイン (CEMEDINE) とは、接合材であるセメント (CEMENT) と力の単位を表すダイン (DYNE) との造成語で、「強い接合・接着」という意味が込められています。これが一般的に言われている社名の由来ですが、実はこの他に、もう一つ意味があると言われています。

それは大正時代。当時、市場で隆盛をきわめていたのはイギリス製の「メンダイン」と呼ばれる接着剤でした。セメダインの創業者である今村善次郎は、「メンダイン」を市場から「攻め(セメ)」出すという意味で、「攻め(セメ) 出せ、メンダイン」と、海外製品に打ち勝とうとの闘志を込めて、開発した製品に「セメダイン」という名前をつけました。

当時はまだ「接着剤」という言葉はありませんでした。家庭では「のり」、産業界では「接合材または、こう着材」というふうに使われていました。実は、この「接着剤」という言葉も、今村善次郎が創った言葉なのです。

## Index

01 イントロダクション ..... 01  
セメダイングループの概要 ..... 03  
私たちの暮らしに身近なセメダイン製品 ..... 05

07 特集1 **フィリピンから  
アセアン地域への  
進出の足掛かりに** ..... 07

特集2 **世界をつなぐ、  
セメダインの働き方** ..... 11

17 トップメッセージ ..... 17  
**グローバル社会に  
ソリューションを提供する  
接着剤メーカーとなり、  
環境と人々の暮らしの未来を  
支えていきます。**

19 セメダイングループのCSR ..... 19  
お客様を大切にする ..... 21  
環境を大切にする ..... 24  
人を大切にする ..... 38  
社会から必要とされる企業であり続ける ..... 40  
企業価値の継続的向上に取り組む ..... 44

本報告書の担当責任部署：  
セメダイン(株) 環境安全衛生部  
連絡先：〒306-0204  
茨城県古河市下大野2184  
TEL：0280-92-4518 FAX：0280-92-1947

報告の対象となる組織：本報告の対象組織は、茨城工場、三重工場、衣浦工場、開発センター、各事業所、営業所、セメダインケミカル株式会社 岡山工場となります。その他の事業所に関連する場合、注記することとしています。

報告対象期間：本報告書の記載内容は、特に注記のない限り、2017年4月から2018年3月までを報告対象期間としています。  
編集の基本方針：環境省「環境報告ガイドライン」(2012年度版)を参考とし、ガイドライン項目に準拠して記載しています。

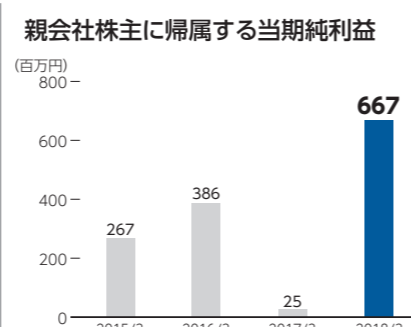
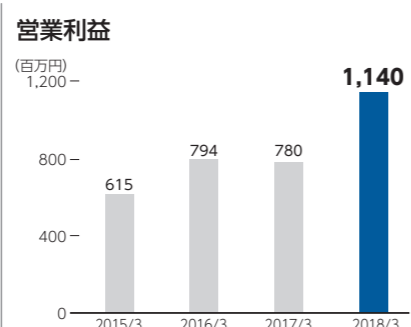
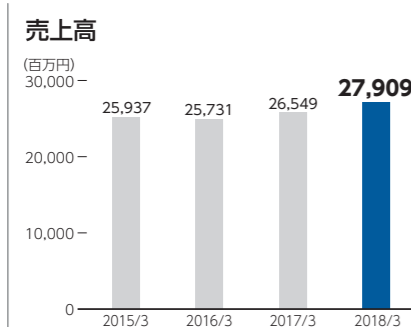
# セメダイングループの概要

## 会社概要

会社名	セメダイン株式会社
本社所在地	〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎 イーストタワー
事業内容	接着剤・シーリング材・粘着剤・特殊塗料・コーティング剤およびその加工品の製造販売 接着および防水などに関する施工および請負
設立	1948年4月22日(創業:1923年11月)
代表取締役社長	岡部 貴
資本金	30億5,037万5千円(東京証券取引所市場2部上場)
従業員数	335名

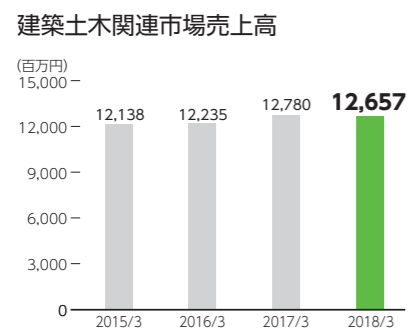


(2018年3月31日現在)

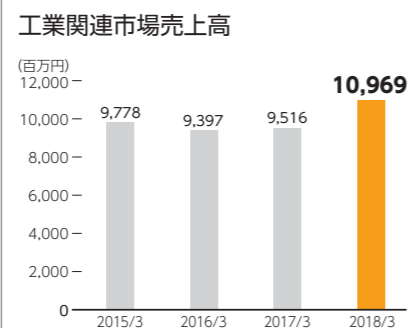


## 事業別セグメント

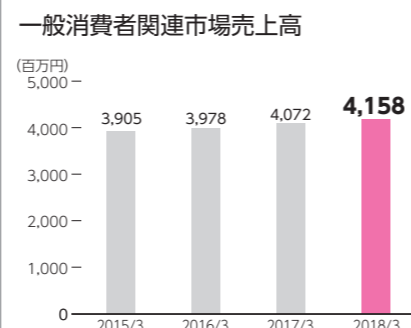
### 建築土木関連市場



### 工業関連市場



### 一般消費者関連市場



## グローバルネットワーク

(2018年12月31日現在)

### Asia

#### タイ



**CEMEDINE (THAILAND) CO., LTD.**  
1717/1 Onnut Road, Suanluang,  
Bangkok 10250 Thailand



**ASIA CEMEDINE CO., LTD.**  
1717/1 Onnut Road, Suanluang,  
Bangkok 10250 Thailand

#### 中国



**思美定(上海)貿易有限公司 / CEMEDINE SHANGHAI CO., LTD.**  
200120 中国上海市浦东新区陆家嘴环路1000号  
恒生银行大厦39楼041室

#### 台湾



**台湾施敏打硬股份有限公司**  
台湾新北市淡水區下圭柔山76-3號

#### フィリピン



**CEMEDINE PHILIPPINES CORP.**  
Block2, Cavite Economic Zone II,  
General Trias, Cavite, Philippines 4107

## Japan

### 事業所

本社、東京事業所／大阪事業所  
名古屋事業所／札幌営業所  
仙台営業所／福岡営業所

### 生産拠点

茨城工場／三重工場／衣浦工場

### 開発拠点

開発センター

### 国内の主な関係会社

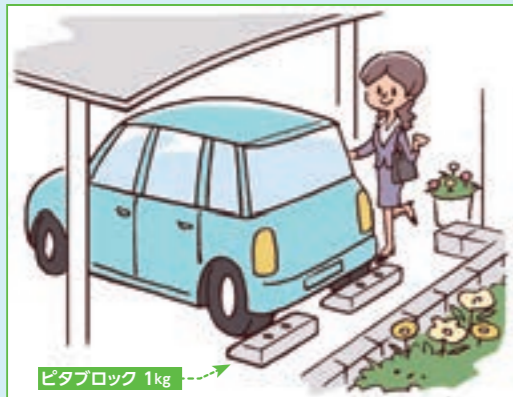
セメダイン販売株式会社  
セメダイン化工株式会社  
セメダインケミカル株式会社



# 私たちの暮らしに身近な セメダイン製品

わたしの1日の暮らし

## 社内でお仕事編



ピタブロック 1kg

### ブロック用接着剤 ピタブロック

【用途】 ブロック用の水性タイプの接着剤。雨天候の翌日に湿った下地にも使用可能。



8:00  
出勤

11:00  
仕事

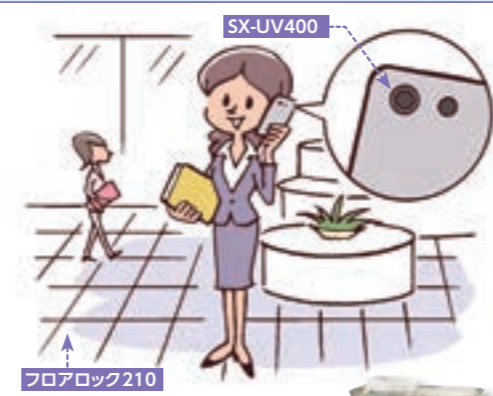
### 一液常温湿気硬化型弾性接着剤 SX720シリーズ

【用途】 コンデンサー、コイルなどの回路基板の固定。電源、トランスなどの絶縁シール。電子部品の防水シール。

難燃 (UL94V-0認定) およびRoHS適合製品です。また、電子部品に有害なシロキサン化合物を含んでいません。各種素材に良く接着し、耐久性にも優れています。色は白・黒を揃え、粘度も2種類を用意しており、発売以来お客様にご好評をいただいています。



SX720シリーズ



SX-UV400

フロアロック210

### ビニル床タイル用接着剤 フロアロック210

【用途】 ビニル床タイルの接着。

より簡単に床リフォームができるように、「剥がしやすい」をコンセプトに開発しました。ビニル床タイルをしっかり接着し、剥がしたい時には簡単に剥がすことができます。床リフォームの時間短縮と省力化に最適な接着剤です。

### UV硬化型弾性接着剤 SX-UV400

【用途】 モバイル機器のカメラのACFなど、部材への追従性が必要とされる電子部品の部材補強。



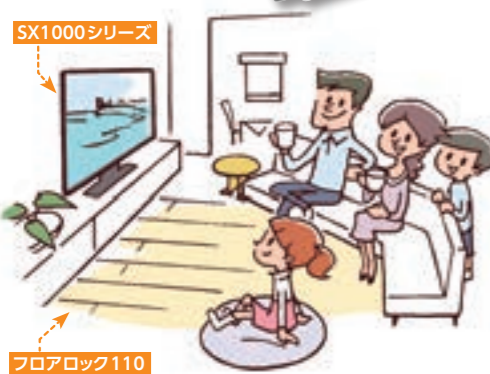
### 変成シリコン系一液型接着剤 フロアロック110

【用途】 木質系床材と下地の接着、床暖房パネルと下地の接着、床根太の接着、床束の接着。



### 放熱性弾性接着剤 SX1000シリーズ

【用途】 CPUなど半導体デバイスの熱対策。ヒートシンクの貼り付け。放熱グリースの代替。



フロアロック110

15:00  
仕事

19:00  
帰らん

わたしの1日の暮らし

## 出張先でお仕事編

### 防水スプレー多用途+長時間

【用途】 皮、合成皮革、スウェード、繊維などの様々な素材を長持ち撥水加工。

防水スプレーを使う人の声をもとに、防水スプレーの基本性能にこだわった商品づくりに取り組みました。様々な繊維だけでなく皮やスウェードにも使えて撥水効果が長持ちするだけでなく、透湿素材にもご使用いただけます。ワクワク感と使う楽しさを感じていただけたらという想いが詰まった商品です。



### 一液低温硬化形フレキシブル導電性接着剤 SX-ECA48

【用途】 マイクロスピーカー・モバイル機器の導電性接着。



SX-ECA48

防水スプレー多用途+長時間



SG-1L

EXCEL II

### シリル化アクリレート系シーリング材 EXCEL II

【用途】 新規ポリマーの採用で、高耐久・高耐候を実現した次世代型シーリング材。



### 変成シリコン樹脂系接着剤 SG-1L

【用途】 建築内装用多用途接着剤「セメダインSG-1L」(速硬化型)の低粘度タイプ接着剤。



7:30  
出勤



メタルロック

シューズドクター瞬間接着剤

### シューズドクター瞬間接着剤

【用途】 ビジネスシューズ、パンプス、スニーカー、ブーツ、ランニングシューズ、サンダルなど様々な靴底剥がれを強力接着補修。



### 金属用高強度接着剤 メタルロック

【用途】 金属同士の高強度接着。炭素繊維同士、炭素繊維と金属の高強度接着。鉄道模型の接着・修理。



12:30  
外出

12:55  
外出

13:30  
打合せ

### 強力瞬間接着剤×2

【用途】 使い切りタイプ2本セットの強力な瞬間接着剤。



### レアタック

【用途】 貼って剥がせる両面粘着シート。メモ・写真・絵・装飾品を貼り付けて剥がせる他、ズレ予防や転倒予防に。



レアタック

強力瞬間接着剤×2

# フィリピンから アセアン地域への 進出の足掛かりに

CEMEDINE PHILIPPINES CORP. (以下CPC) は2012年10月に会社登記、2013年6月よりPEZA認可のもと住宅メーカー向けの建築用接着剤などの生産・販売を開始しました。従業員は日本人駐在員含め13名(2018年9月現在)、売上高は約561百万円(2017年実績)、主な生産品目は変成シリコン系外装タイル張り用接着剤と溶剤系プライマーです。2017年より変成シリコン系接着剤、防水材のフィリピン国内市場、ASEAN地域への販売も開始しましたが、まだまだ販売量は少ないのが現状です。

設立以来、生産品目の増加、シェアアップにより、順調に売上を伸ばしてきています。今後もより売上を伸ばしていくためには既存顧客以外にも、積極的にフィリピン国内およびASEAN地域への展開を図っていく必要があります。そのために、日本との連携、グループ海外拠点との協業を積極的に進め、設備投資、人員配置も計画的に進めていく予定です。



## 社長 メッセージ

フィリピンの大きな特徴としては、①人件費が安い②GDP伸び率が大きい③英語を話す④日本へ近い(距離、親日)⑤労働力となる若い世代の人口が多い(人口ボーナス、平均年齢23歳、日本は46歳)ということがよく言われています。ただし、教育が行き届いていない、国内に主だった産業がないなど課題が多いのも現状です。フィリピン人の気質としては南国気質で明るく細かいことは気にしませんが、仕事に関しては、まじめに働く人も多く、手先も器用で細かい作業も問題なくこなします。

このような中で、日本人の役割としては会社組織としての機能を上手く発揮させること、モチベーションを常に高めていくことと感じています。CPCとしては建築用接着剤、シーリング材を製造販売していく中で、セメダインブランドを汚すことなく、品質面も含めた安定供給が最大の使命として考えています。これには製品もそうですが、技術面でのサポートも含まれます。製品供給については、工場操業時の安全を優先し、安全衛生にも力を入れていきます。今後の成長を考えるとフィリピン国内、ASEAN地域への販売の増加も必要となります。2017年にはフィルムパック充填機も導入、POSシールtypeGといった新製品も立上げました。今後販売の増加に向けて日本とも連携してより一層の努力をしていきます。今後も皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



社長 高橋 正男

## 従業員の力を発揮するための会社行事

フィリピンでは福利厚生行事の一環として、様々な会社行事が一年を通じて行われます。もちろん会社によって内容は異なりますが、CPCでは以下のような行事を行っています。

### 2018年 CPCの社内行事

- 2月 Fellowship (懇親会)
- 4月 Outing (遠足)
- 8月 Sports Fiesta (運動会)
- 10月 Fellowship (懇親会)
- 12月 Christmas Party (クリスマスパーティー)  
クリスマス雑貨の配布、クリスマスハムの配布

一番重要な行事は年末のクリスマスパーティーです。CPCでは社員全員でテーブルを囲み、少し豪華な食事を仲良く食べて過ごしますが、会社によってはスタッフのダンスなどの出し物があり、かなり盛り上がります。

遠足は基本的に日帰り遠足で、朝から車で遠くのビーチリゾートに出掛けて、皆で賑やかに一日を過ごします。年によっては他行事の予算を遠足に使って、一泊で出かけることもあります。その場合は低予算なこともあり、日本人も含めて大部屋に寝ることになり、夜中まで宴が続きます。

その他の行事でも費用はすべて会社負担となるので、全社員がいつもと別人のようによく食べ、よく飲みます。

このような行事を通じて感じるの、普段見ることのない社員達の一面を見ることができ、また普段聞かれない日々の生活、家族、友人の話などを通じてそれぞれの置かれている状況も把握することができます。

CPCの会社サイズだからできるということもありますが、今後もこれら行事を通じて社員皆で団結し、安全衛生活動の徹底、品質向上を進めて行きます。



### ブラカン県にて

今回の遠足は一泊にて、大きなヴィラを貸し切り皆で仲良く宿泊し、昼間は山道をバギーで走ったり、湖でバナナボートに乗ったりとみんなで大いに楽しみました。



### マニラ首都圏タギッグ市にて

皆で少し高級なモール内にあるブッフスタイルのレストランで食事。日本でいう忘年会に近い雰囲気、クリスマスを祝いながら今年一年の労をねぎらいます。

## CPC会社行事に参加して

会社行事には毎回参加しています。社長はじめ新入社員や普段あまり会話することのない社員とも話すことができ、また仕事以外の話も出来るので、その人の個性が分かり、次の日からの仕事もしやすくなります。社員のチームワークを高めるにはとても良いと感じています。また、個人的にも初めて行く場所や野外活動を通じて人間性向上にもなっていると感じます。

Kristine Joy Estrada

CPCの会社行事は他社と比較しても充実しています。内容、回数も多く仕事の疲れを癒すにはとても良い機会です。皆と遊びながら、お酒を飲みながら仲良くなることができ、チームワークの向上にも良いと思います。今後も行事参加を通じて色々な経験をしていきたいと思っています。

Alvin Kenneth Firme

## 日本から見たCPCの役割について

CPCにはセメダイングループによるアジア展開の橋頭堡としての役割を期待しています。それに向け、まずはフィリピン国内のお客様のニーズに応えることが重要です。現在は特に安定供給体制を強化すべく、安全対策や生産能力確保のための設備投資を推進したり、製造力向上のための現場改善活動に注力していますが、従来から行ってきた技術的な支援についても接着のプロフェッショナルとして強化を図り、益々お客様の事業活動に貢献してもらいたいと思います。

お客様とともに発展し、経営基盤を充実させることにより、保有する生産設備や技術力、立地などを生かし、セメダイン製品のアジア各国への製品供給拠点として業容拡大を目指して欲しいと考えています。



経営企画部 部長  
近藤 賢一



事務業務 チームリーダー  
Hazel Delos Santos

業務内容

- 人事総務業務
- 経理業務

チームリーダーとしての役割

色々な個性がある社員全体の団結とより良い職場環境を、会社利益のために作ることを心掛けています。また、社員の業務に対するモチベーションを上げるように常に心掛けています。常に平等に接し、良いことに対してはしっかり評価するようにしています。皆で一つ一つのことにに対してゴールを目指せるようにしたいと考えています。また、会社資料や行政提出資料などの内容をしっかり確認し期限を守り、準備、作成、提出することを実践しています。

セメダイングループの中でのCPCの役割

安全で良好な品質の製品をASEANやフィリピン国内市場に提供します。



上級スタッフ  
Kris Bryan Evangelista

業務内容

- 品質関連業務
- 環境安全業務

常に品質の良い、安定した製品を提供するために必要なこと

常に5Sを実践し作業環境を改善していくこと、また行政機関のルール、会社ルールを遵守すること、環境や安全を常に改善していくことで高品質の製品を提供できると考えます。

環境担当としてのDENR (環境天然資源省) への取り組み

DENRとは常に良好な関係作りを意識しています。原材料や製品の輸出入の際、DENRはとても重要な機関であり、セメダインにとって同機関と良好な関係性を維持することが不可欠です。そのために提出書類の正確性や提出期限はしっかり守り信頼を得る努力をしています。また定期的な訪問やセミナーを通じて、化学物質関連の最新情報の取得や、今後の動向などを確認しています。

生産工程改善への取り組み

まずは安全に作業できる環境づくりが重要と考えています。作業員には保護具の使用を徹底させ、各作業に対してルールを守らせ、安全な作業の実施を徹底させています。また、生産エリアの作業員が連携して効率的に作業できる環境づくりを意識しています。さらに常に設備の状態を確認し、安全に平常運転ができるように心掛けています。

安全への取り組み

新入社員が入ってくることも多いので、ベースとなる5Sを徹底させるように努力しています。ルールを守らせ、安全に対する理解と知識をできるだけ深められるようにしています。そのためにも自分自身が率先して、ルールを遵守して行動し、お手本となれるように努力しています。



上級現場作業員  
Reynaldo Anonoy

業務内容

- 作業員教育担当
- メンテナンス関連業務

私たちの業務で重要なこと

製造

製造指示書の内容を理解し、確実に実行していくことで納期を守り、高品質の製品を生産することです。

John Paul Rosima

製造

常に安全に注意し、製造指示書に忠実に従い作業することです。

June Carlo Angosta

購買

原材料、生産製品の在庫量や使用量、生産量を常に把握し、その価格や価値、品質を継続的に分析できる状態にすることです。

Fatima Daisy De Belen

製造

安全に高品質の製品を生産するために他の社員とのチームワーク、信頼感を高めていくことです。

Mark Joseph Datingaling



製造

責任感を持ち業務にあたることと自分の役割をよく理解し、常に成長できるように努力していくことです。

Carlo Guevarra

製造

重要なことはまず安全です。そして自分に与えられた業務に対して責任を持ち、質の高い仕事をしていくことです。

Jackielou Aguilar

品質管理

業務上まず安全、そして品質をしっかりと確認することを心掛け、安全で品質の良い製品を提供することです。

Kristine Joy Estrada

製造

原材料、設備、工程に対して準備を怠らないこと、安全に注意することです。そしてしっかり業務をこなし、安全で高品質の製品を生産することです。

Alvin Kenneth Firme

# 世界をつなぐ、

# セメダインの働き方

## 様々な人事制度の積極的な活用に向けて

北 セメダインは、一人ひとりの状況に応じて多様性のある働き方ができるように、育児・介護休業制度やフレックスタイム制、またボランティア休暇など様々な勤務体系や休暇制度を充

実させてきました。人事総務部として、今後これらの制度をさらに使いやすいものにして、より働きやすく活気あふれる職場にしていきたいと思

木村 入社した頃は、私は制度についてはほとんど知りませんでしたが、結婚して子供が生まれて、勤務体系や休暇制度を改めて確認し、短時間勤務を活用させていただきまし

るにしたがって仕事の量や幅もだんだん広がり、時間内に業務が終わらなくなりました。もう少し働きたいと思った時に、フレックスタイム勤務を活用している部署があることを知りました。そこで、私も活用したいと先輩や上司に相談し、活用できるように改善していただきました。今も家族の協力を得ていますが、フレックスタイム勤務で時間を有効に活用して働いています。

山家 10年以上前になるのですが、私もフレックスタイム勤務をしていました。当時は結婚して1人目の子供を、私が保育園に送りに行っていました。振り返ると、フレックスタイム勤務ができたことで育児に関わることができて良かったと思います。時間を有効に活用し生産性を上げ、成果を上げることができれば、会社としても活気が出てくると思います。

加納 開発部でも、最近では海外へ

の進出から仕事の量が増え、時間が足りないということが起きています。そうした中で、働き方を最適な方向に変えていくためには、制度の活用と同様に、プロとしての意識を持ち知識をつけるということが必要だと思います。プロの集団になれば、お客様との打ち合わせを行う場合でも、その場ですべてを完結させることで持ち帰る課題を出来るだけ少なくすることができます。また、社内会議もスムーズ

に進行させることができ、仕事も効率よく進めることができます。それが私の理想とする働き方です。

伴場 海外推進課では、海外への出張の時に移動期間が長くなるので、その中で上手く休憩を取ったりすることで、仕事とプライベートのスイッチを切り替えるようにしています。また、代休を取得していても海外のお客様には関係がなく、時には電話での対応や出勤をする必要もありま

## セメダインらしい働き方を支える人づくり

接着剤のパイオニアとして、あらゆる産業に“つなぐ”技術を提供してきたセメダイングループは、様々な人事制度の充実への取り組みを通し、国内での独自技術の研究開発や、海外での各国の規制・法令遵守と異文化への対応などグローバル展開も見据えて、多様な働き方を推進しています。そこで、各部門から社員を集め、働き方に関わる座談会を開催しました。



山家 宏士  
アジアセメダイン  
取締役

加納 伸悟  
開発部  
研究第三グループ  
課長

田鹿 智恵子  
物流部  
課長

木村 智子  
環境安全衛生部  
環境管理グループ

伴場 健太  
工業材料部  
海外推進課

北章 吾  
人事総務部  
部長

す。そのため、私は移動時間中での調整を大切にしています。

**田鹿** 私は、2018年4月に休職から物流部に復帰しました。以前、人事総務部にもいましたので、様々な制度があることは理解しています。属人的ではなく部署の全員が仕事を把握していて、簡単に引き継ぐことができる職場環境であれば、様々な制度を活用しやすいと思います。しかし、すべての部署がそういうわけにはいかないと思います。

## 業務の分散化、 効率化に向けた 課題は山積

**加納** 田鹿さんのお話は、業務の分散化が必要ということだと思うのですが、開発部では難しい側面もあります。日進月歩で進化している技術に対応したテーマを競合に遅れをとらず解決するためには、最適な社員に割り当てる必要があります。そうする



と一人ひとりにかかる仕事の比重が変わってしまう。要員の配置を見直したりして、余裕のある協力体制を築ければ、開発部のワークライフバランスの満足度を高めることにつながると思います。

**伴場** 業務の効率化という点では、海外に出張する時には、大抵日本の始業時間から業務をスタートして、現地の終業時間まで働くことが一般的です。アジア圏でも時差が1時間から2時間ありますから、日本にいる時よりも長く働くことになります。

**山家** 実は日本の始業時間に合わせて仕事を始めた方が、コミュニケーションをとりやすく効率が良いのです。海外で仕事をする上では、この辺りも課題だと思います。

**伴場** また、出張中は書類作成や決裁をスムーズに進めるインフラ環境が整っていません。デジタル化や電子決裁を導入することで、外でも申請・承認できるような形にしていれば、非常に効率よく仕事ができると思います。

**山家** 効率化のアイデアは色々あると思います。例えば、在宅勤務も今後の検討課題だと思いますし、今回私は、タイから帰国して参加しているのですが、これも通信を使って、テレビ会議などができるようになれば、効率化が図れます。これも設備面での効率化ですね。

**木村** そうした要望は積極的に声を

上げるべきですね。そのおかげで、私の時には産休・育児休業がとても取りやすくなっていました。フレックスタイム勤務も「期間をもう少し延長させて欲しい」と、上司や組合に相談した結果、小学校「入学時まで」から「卒業時まで」に延長することができました。今の部署は女性社員も多いので、私が活用した制度を皆に知ってもらって、他の女性社員にもうまく利用してもらえれば良いかなと思います。

**田鹿** 最近では、産休・育児休業を取得するのが当たり前という状態になってきていますが、一方で産休・育児休業を取得した人には「自分は復帰できるのだろうか？」という不安もあったようです。しかし、今ではお子さんが小学生を卒業するまでフレックスタイム勤務を延長できるようになりました。その方が、女性社員にとって有効に時間が使えるようになるからだと思います。

**北** たしかに設備面の充実も進めなくてはならないですね。また、制度はあるけど活用できていないということに対しては広報活動の充実も重要です。今皆さんが言われたように、現場の意見を声に出してもらおうというのも、非常に大事なことです。会社としても、そうした声に真摯に耳を傾けて、できる限りのフォローや改善を進めていきます。

**田鹿** 私が所属している物流部門で最近増えている海外からの輸入をみると、時間にルーズで決めている時間に事が進まないことが多いという課題があるように思います。一方で海外に輸出する場合には、現地の法規制に抵触するような化学品は当然ながら絶対に輸出できない。海外はルーズな面と厳しい面が両極端であり、日本的な感覚とは異なる印象を持っています。

**山家** たしかに、物事がスムーズに進むかどうかという点では、日本的な感覚でみると難しいですね。日本では一回確認すれば済むことも、海外では何度も確認する必要があります。また、セクショナリズムもきっちりしていて、隣の部署で何か不具合が起きていても関心を持ちません。こうしたところから物事がスムーズに回転しないという事態が起きています。気配りやきっちり和时间通り仕事を進めるのは、日本人独特の文化だと痛感しています。

**伴場** 私が出張する東アジアエリアでは、現地企業と業務を進めていくために、通訳が必要です。しかし、微妙なニュアンスの部分で疑問を感じることもあります。そこで通訳に応じて言葉遣いや言い方に気を配り、全面的に通訳に頼るのではなく、きちんとコミュニケーションをとりながら進



めることで、ニュアンスの違いを生じさせないようにしています。また、仕事中心に物事を考える日本人と違い、アジアの方々は、基本的にはプラ







イベント重視なので、仕事は仕事と割り切った行動を取ることも想定するようにしています。

**加納** 開発部としては、海外向けの新製品の開発や、試作品を試験するとなると、そのスピード感が最も重視されます。現地企業にスピード感があるとされている競合他社や現地のローカル企業では、現地に拠点を設置して開発スタッフを配置して開発行為を行っています。

**木村** 2010年代くらいまでは、日本にある既存の情報だけで海外への輸出ができていました。しかし、ここ何年かは環境変化のスピードが早く、それと並走するために、私たち間接部門の間も開発部と一緒に走ることが多くなりました。伴走の1つとして、私は、各国の法規制に関して、コンサルタント会社のセミナーなどにも積極的に参加して情報を収集するようになりました。これは、どのような質問にもすぐに答えることができる体制にするためです。さらに、必要であれば海外に出張して現地で確認し、質問や指導も行います。また、社内で法規制に関する教育・勉強会も開催するようになりました。

**北** セメダイングループでは、ここ数年海外に向けた事業展開を加速しています。今後はさらに出張や赴任する社員も増えるものと思います。

その中で、我々人事総務部においても経験を積み情報を得ることにより、赴任する社員の負担を軽減していくことができると思います。海外での開発については、もちろんケースバイケースだと思いますが、既にそのようなニーズに対応可能な取り組みを始めています。海外で働くことが全てではありませんが、日本よりも大変な環境で働くこと、仕事をしていくためには、自身がプロになること、そしてプロを育成することも、働き方改革を進める推進力になると思います。

## 人が財産の セメダイン グループ

**田鹿** 女性だから、男性だからというのではなく、一人の人間として働きやすい職場であれば、私は長く働き続けることができると思います。これまでの当社グループの規程や制度は、他社で効果を上げた事例をそのまま導入したものが多かったと思います。でも本来はセメダイングループ独自の規程や制度を創設していかなくてはならない。そうすれば、もっと活気のあるセメダイングループになると確信しています。そのためにも一人ひとりの働き方にフォーカスし

なくてははいけません。

**加納** セメダイングループは、1つの案件が1億円、100億円というようなビジネスモデルではないので、開発テーマも部員それぞれが多数抱えている状況です。この中で「良い働き方」という最適解を追求すれば、それは、きっと他社とは違うところにあると思います。そのためには、皆で話



し合い、皆で意識を変えて協力する体制が必要です。

**伴場** 意識を変えるヒントは、製品開発にもあると思います。我々が進めているテーマでは、両面テープを接着剤に代える活動に取り組んでいます。こうした製品開発には、当社グループのこだわり、環境に対する考え方が活かされています。接着剤を使用することで、お客様の工場で発生する廃棄物、廃棄費用の削減につながります。このような環境負荷低減の製品開発では、当社グループができる環境対策を、しっかりとお客様に伝えていくことが重要だと思います。

**山家** 廃棄物削減は、世界的に注目されており、マイクロプラスチックなどの問題にも直結しますね。今後、新しい素材開発がどんどん加速され製品化されれば、当社グループではその素材を用いた製品化を進めていきます。

**木村** この「社会・環境報告書」を通じて、当社の社会貢献や環境負荷低減の取り組みについて、お客様・お取



引先様・社員の皆さんに知ってもらうことが「社会・環境報告書」の役割だと思っています。今回のダイアログを目にした社員の皆さんが、働き方を真剣に考え、一人ひとりのモチベーションが高まる機会になれば良いと思っています。

**北** このダイアログを通じて、私は「セメダイングループは人が財産」だと改めて認識しました。当社グループのお客様・お取引先様・社員一人ひとりが安全で健康かつ幸せに暮らせる状況をつくるのが働き方改革であり、当社グループが担う社会貢献なのです。AIやロボットを活用した働き方改革や効率化が今後進んでいくことは間違いありませんが、それらも使いこなすプロがいないと役に立ちません。だからこそ、常日頃から切磋琢磨していく「人づくり」が働き方改革の中心にある、ということもよく理解できました。今日は皆さん、本当にありがとうございました。

**一同** ありがとうございました。

人を大切にし、より良い製品を  
より多くの人々に提供することにより  
社会に貢献する



## グローバル社会に ソリューションを提供する 接着剤メーカーとなり、 環境と人々の暮らしの未来を 支えていきます。

セメダインは、「川上から川下まで存在感のある接着のプロフェッショナルとしてグローバル社会にソリューションを提供する接着剤メーカーとなり、環境と人々の暮らしの未来を支える」ことを全社ビジョンとし、より安全で環境に優しい接着剤の提供や、接着剤を使用することによる建築物や製品の高性能化やロングライフ化の実現、リフォームしやすい接着剤の提供など、様々な場面で、接着剤を通じた「持続可能な社会の実現」への貢献を目指しています。

より良い品質を目指してさらなる品質保証体制の強化にも取り組み、海外グループ会社を含めたセメダイングループによる安全・環境・品質の改善活動の共同推進を実施しております。

また、持続的な成長のためには人材の育成が欠かせません。各部門における必要な能力育成のために、ひとりひとりの個性や特性を考慮し、長期的視点に立った計画的な人材育成を進めてまいります。

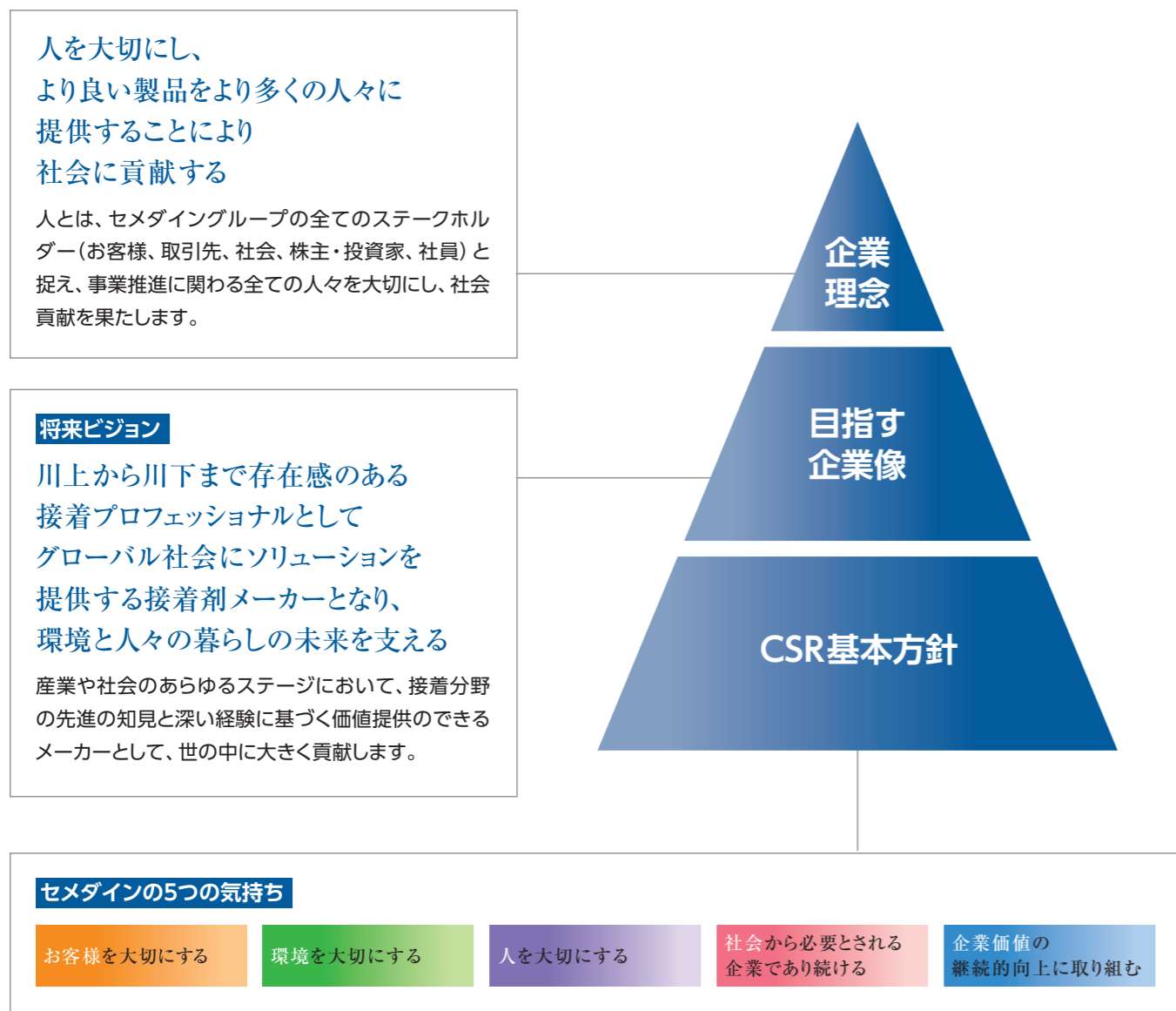
今後も、信頼される企業を目指して、尽きることのないモノづくりの課題に挑戦し続けます。

代表取締役社長

**岡部 貫**

## 持続可能な社会の実現に向けて

セメディングroupは、信頼される企業であり続けるために、企業理念をグループ全員が共有しています。  
また、セメディングroupの社員として社会的責任を果たすCSR基本方針を「セメディングの5つの気持ち」として掲げ、持続的な社会づくりへの貢献を目指しています。



## セメディングの5つの気持ち

お客様を大切にする	1 安心・安全な商品の提供	2 お客様ニーズへの対応	3 付加価値のある製品の開発
環境を大切にする	1 法律より厳しい環境基準の運用	2 環境対応型製品の開発	3 省エネルギー
人を大切にする	1 グループ全体の人材育成	2 ダイバーシティ化への対応	3 制度、職場環境づくり
社会から必要とされる企業であり続ける	1 地域社会への貢献	2 適時適切な情報開示	3 社会にソリューションを提供する接着剤メーカーになる
企業価値の継続的向上に取り組む	1 コーポレート・ガバナンスの強化	2 コンプライアンス、リスクマネジメント	3 国内・国外グループ全体の安全・品質の維持向上

## 主なステークホルダーとの関わり

私たちは、セメディングgroupと関わるすべての人を大切にす理念を掲げています。  
様々なステークホルダーに対して私たちが出来ること、そして取り組まなければいけないこと(企業としての使命)を明確にし、最適な形でコミュニケーションを図りながら、ステークホルダーと良好な関係を構築してまいります。

	主な果たすべき責任	コミュニケーション方法
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>●品質マネジメント</li> <li>●環境に配慮した商品開発</li> <li>●物流上での安全配慮</li> <li>●商品情報・サービスの提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様相談窓口(接着技術相談センター)の設置</li> <li>●営業担当・サービス担当によるお客様対応</li> <li>●WEBサイトによる情報発信</li> <li>●展示会の開催</li> </ul>
取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>●安定調達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々の業務を通じての対話</li> <li>●調達パートナーの訪問確認・フィードバック</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域イベントへの参加</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>●株主への利益還元</li> <li>●株主・投資家との対話を通じた企業価値の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●株主総会</li> <li>●ニュースリリース・公告などによる適時の情報開示</li> <li>●WEBサイトなどによる情報発信</li> </ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労働安全衛生</li> <li>●人材育成</li> <li>●雇用の多様性</li> <li>●ワークライフバランスへの配慮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労使協議会、または代表との協議</li> <li>●コンプライアンス・リスク管理委員会</li> <li>●社会環境報告書アンケート</li> </ul>

## セメディングgroupのCSR活動報告

### お客様を大切にする

- P21
- 安心・安全な商品の提供

### 環境を大切にする

- P24
- 法律より厳しい環境基準の運用
  - 環境への取り組み
  - 事業活動と環境負荷
  - 環境マネジメントの定量的評価
  - エネルギー使用量・廃棄物の管理
  - 環境会計

### 人を大切にする

- P38
- グループ全体の人材育成
  - ダイバーシティ化への対応

### 社会から必要とされる企業であり続ける

- P40
- 地域社会への貢献
  - 適時適切な情報開示

### 企業価値の継続的向上に取り組む

- P44
- コーポレート・ガバナンスの強化
  - コンプライアンス、リスクマネジメント
  - グループ全体の品質・安全への取り組み

# お客様を大切にする

法令遵守を第一に掲げ、お客様・取引先との関係を、公正かつ健全なものとしていきます。

そして、品質に優れ、安全・安心で環境に優しく、社会に有益な製品とサービスを提供することで、社会に貢献し、企業価値を高めていきます。

## Voice

### お客様や取引先と深い信頼関係を築くために意識していること

私たち接着技術相談センターが常に意識していること、それは、「お客様目線」です。接着剤は決して身近なものではないながら、店頭には多種多様な製品がずらりと並んでいます。使ってみようと思っても、戸惑われる方も多いでしょう。その不安な気持ちに寄り添えるよう、常にお客様の立場に立って考えることを心がけています。

お話を伺っていて、接着剤を初めてご使用になるお客様には、製品の選定だけでなく、下地の清掃方法、製品の使用方法、養生の仕方、使用時の注意点など、併せてご説明をしています。

反対に、製品を使い慣れている工場のお客様が緊急でご相談される場合や、お客様をお待たせしている様子のホームセンターからの問い合わせには、必要な回答を簡潔に述べるなど、状況に応じた対応をするようにしています。

私たちではお答えできないようなご相談が寄せられることもあります。その場合は適切な部署が素早く対応できるよう、迅速に情報の共有化を図っています。

社内への情報展開は、正確性を期すためにメールを基本としたうえで、対応部署に改めて電話や対面でも連絡を行うことで、依頼に抜けや漏れが発生しないよう注意を払っています。

お電話をくださるお客様は、皆様何かしらお困りになっています。接着技術相談センターは、そのお言葉に真摯に耳を傾け、行動することで、少しでもセメダイン製品を身近に感じていただく橋渡しができる存在でありたいと考えています。

主な取り組み

安心・安全な商品の提供



高橋麻子  
接着技術相談センター



遠藤和香子  
接着技術相談センター

## 安心・安全な商品の提供

### 安定調達推進

当社では、生産材の適切な品質の確保や継続的な取引先としての与信状況の把握、そして安全調達を推進するため、取引先と、取引基本契約の締結、材料の仕様書取り交わし、公平・公正な購買取引を通じて、協力と信頼関係の構築に努めています。

#### 調達基本方針

- ① 取引先と相互の企業価値の向上を目指した調達活動を推進します。
- ② 地球環境への負荷低減を目指し、グリーン調達に取り組みます。
- ③ 公平かつ公正な取引機会を提供し、品質、価格、供給安定性、技術開発力、環境保全、安全確保への取り組み等を総合的に考慮した合理性のある取引を行います。
- ④ 国内外の関連法規制を遵守した取引を行います。

#### 遵法・購買倫理

- 国内外の法令、ルールを遵守し、「セメダイングループ行動規範」や、社内諸基準に則り良識ある行動に努めます。
- 取引先との契約を誠実に履行します。
- 取引先とのコミュニケーションに配慮して、知り得た情報はその重要性をよく理解し、秘密保持に努めます。
- 取引先とは、公正・公平・透明・合理的な業務手順を念頭におきながら共存共栄を目指す関係を築いていきます。

#### 購買取引の原則

- 経済的な合理性に基づき、適正価格での取引を行います。
- 取引先選定にあたっては、品質・価格・供給安定性・技術開発力・環境保全・安全確保・納期等から合理性のある選択を行います。不採用の場合、要望によりその理由を説明します。
- 購買取引は原則として複数見積比較に拠り行います。
- 取引先と行うコストダウンの取り組みでは、ルールを定めて積極的に推進します。

#### 購買取引に於けるCSRの実践

- 原材料等の購買取引は、購入品の品質・安全性確保のため、法令、セメダイングリーン調達ガイドライン及び諸基準を適用します。
- 購入品が、その生産・流通に於いて、地球環境の保全に配慮されており、人権侵害に関わるものでないことを確認します。

#### 取引先への要請

- 「調達基本方針」の趣旨を理解し、相互の企業価値の向上を目指して、サプライチェーンを構成するビジネスパートナーとしての協力を要請します。
- 経済合理性に裏付けられた合理化等の各種提案の促進を要請します。
- 取引先に対し、コンプライアンス・人権・労働安全・環境・品質・安全等への取り組み状況の明示を求め、協働してCSRを実践していくことを要請します。

## サプライチェーンマネジメントの構築

お客様により安全で信頼性のある製品をお届けするために、取引先各社の協力を得て、サプライチェーンを含めたより良い環境システム、品質システムの構築に努めています。2017年度は34社の原材料購入先、委託加工先の環境を含めた品質監査を実施し、改善にご協力いただきました。

## セメダイングリーン調達基準の制定

環境に配慮した製品を提供していくためには、環境負荷のより少ない原材料や副資材を調達することが不可欠です。当社は2005年度に環境関連物質に関する“グリーン調達ガイドライン”を制定しました。さらに旧セメダインオートモーティブもこの基準の範囲に加え、2018年7月に“セメダイン グリーン調達ガイドライン Ver.5”として4回目の改定に至っております。

### 適用範囲

当社が調達する製品の原材料や直接製品を構成する包装材、離形紙などの副資材。

### 要求事項

- 取引先における環境管理システムの構築
- 環境関連物質の管理等に関する環境パフォーマンスの達成
- 当社が指定した環境関連物質に関する調査および報告
- 「RoHS\* 10物質の測定データ」、PRTR法\*、労働安全衛生法、化審法\*、毒劇法\*、REACH\*等法令該当化学物質含有情報の提供

### 運用

原材料・副資材は、法令該当化学物質等の含有禁止物質が含まれていない、あるいは管理すべき物質の含有量が把握されているものを調達していきます。また、当社評価結果により、取引先に対し、より安全で環境負荷の少ない原材料・副資材への改善をお願いします。



※RoHS  
Restriction on Hazardous Substances :  
電気電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する指令  
改正RoHS指令(2011/65/EU)で定められていた禁止物質(制限物質)6物質に、2015年6月4日、フタル酸系の4物質を追加し、これにより、禁止物質は10物質になりました。

※PRTR法  
化学物質排出把握管理促進法：  
特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律。

※化審法  
化学物質の審査及び製品等の規制に関する法律：  
人の健康及び生態系に影響を及ぼすおそれがある化学物質による環境の汚染を防止することを目的とする法律。

※毒劇法  
毒物及び劇物取締法：  
毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行うことを目的とする法律。

※REACH  
Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals :  
欧州連合における化学物質の登録・評価・認可および制限に関する規制。



ENVIRONMENT

# 環境を大切にしている

化学物質を取り扱う企業として、化学物質に対する認識を深め、適切な管理を行うとともに、製品を提供する企業責任として、製品の性状、安全性、取り扱い方法を明確にし、それらを利用するすべての人たちの安全と健康、および環境を守るために、様々な活動を展開しています。

## Voice

### 環境配慮製品の開発について

製品の研究開発において、お客様の安全・環境面に配慮するため、化学物質規制の情報共有や各国法規制への対応について、設計の各段階にてチェックを行っております。また、材料選定時には原材料の含有成分調査を行うとともに、必要に応じ、分析、確認を実施しております。さらに、原材料メーカーとの情報交換を積極的に行い原材料情報の収集に努めております。有害微量成分の分析について、外部委託の他、社内分析技術の向上を図ることで、社内での分析環境を整備しております。製品の量産試作時においても、生産部門と連携を図り、安全・環境に配慮した製品づくりを行っております。

## Voice

### 環境を大切にしている上で意識していること

製品の開発にあたっては、まずはTVOC対策や各法規制に対応した材料の選定をし、組成設計を行うようにしています。また、ゴミの量を削減できるフィルム容器の採用など、接着剤そのものの面からも環境対応に取り組んでいます。また、開発テーマとしても最近では環境やお客様の安全により配慮した製品の開発というテーマが多く、様々な環境対応品の開発を行っています。例えば、作業の方の安全を考慮した低臭タイプの製品や、作業環境の改善を目的とした騒音や粉塵を出さずに接着したものを剥がすことができるリフォーム用の接着剤、表面を汚してしまっても簡単に拭き取ることができ、材料が無駄にならない接着剤などの開発を行っています。

齋藤知紀  
開発部  
第二グループ  
課長



西村香菜  
開発部  
第二グループ



### 主な取り組み

法律より厳しい環境基準の運用

環境への取り組み

事業活動と環境負荷

環境マネジメントの定量的評価

エネルギー使用量・廃棄物管理

環境会計

# 法律より厳しい環境基準の運用

## 環境管理体制の構築

### 環境管理体制

お客様に、安心して当社製品を使用していただくための品質保証体制として、品質保証本部の下に、品質保証を担う品質保証部、工場生産される製品の品質を管理する品質管理部があります。

これに加え、2015年の4月から環境管理体制の強化の目的で、新たな品質部門として「環境安全衛生部」が設立されました。

環境安全衛生部は、製品の表示などに関する化学物質の法規制管理やグリーン調達、作業現場での化学物質リスクアセスメントなど、接着剤に使用される化学物質に関する管理と、当社グループに勤務する社員の労働安全衛生やリスク管理、5Sなどを担当する安全衛生管理という、大きく分けて二つの業務を担っております。

### 基本的な考え方

近年、世界的に化学物質に対する法規制がますます厳格化されてきております。その中セメダインは、接着剤の総合メーカーとして、法令遵守をリスク管理における生命線と位置づけ化学物質管理に取り組んでいます。世界各国の法規制とその動向を把握し、各国の化学物質の規制に適合した製品の設計を継続するとともに、化学物質製品情報への開示要求へ速やかに対応し、化学品・製品安全の推進に努めています。2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(WSSD[ヨハネスブルグサミット])においては、化学物質の管理に関する「2020年目標」が提唱されています。この目標達成に向け、セメダインはモントリオール議定書、ストックホルム条約、ロッテルダム条約などにおける国際懸念物質の廃絶と、新たに追加が予定されている規制物質を含有する製品の代替などの取り組

みを推進し、また化学物質管理に関する情報提供を積極的に行うことで、社会全体のリスク低減に向けた貢献を続けていきます。さらには、化学品管理分野におけるエキスパートとして、工業会活動などを通じて、化学品安全・化学品規制に関する課題の検討と対策に積極的に関わっています。

### 海外の製品リスク管理・規制への対応

環境に関わるリスクは多岐にわたり、法規制は世界各国において年々強化されています。

このような状況を踏まえ、当社では、環境管理グループが中心となって、新しい環境法規制に関する情報収集やリスクなどの分析を行い、法令遵守を徹底しています。

具体的には、様々なセミナー、工業会、コンサルタントなどを通じて、海外の化学物質に関する最新情報を収集し、法規制の改正などに速やかに対応する体制を整えています。

近年、欧州における化学物質規制REACHの制定をはじめ、韓国・中国・台湾などで、化学物質のリスク管理強化を目的とする法規制化が進み、東南アジア諸国でも、GHS\*が導入されるなど、各国でSDS\*などの整備が進められています。

製品を輸出する際は必ず、米国・韓国・中国・台湾・フィリピンなど、各国の既存化学物質リストへの収載有無の確認を徹底するとともに、製品設計する上でも、確認精査するよう取り組んでいます。

既存化学物質リストへ収載されていない物質を各国へ輸出する際には、法的手続きを実施している他、海外で製造もしくは輸入している製品中の化学物質について、対象国での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録を進めて

います。

\*GHS  
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals :  
化学品の分類および表示に関する世界調和システム。  
\* SDS  
Safety Data Sheet :  
化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類のこと。旧称：製品安全データシート (MSDS) が2012年3月制定のJIS Z 7253で安全データシート (SDS) に名称変更された。

### 海外法規制に対して

SAICM\*達成目標である2020年に向けて、世界各国で化学品に関する新たな法規制が制定・改正されています(中国、韓国、台湾、タイ、米国、トルコなど)。特に、欧州のREACHに端を発するすべての既存の化学物質を対象とした登録義務化が、韓国、台湾でも導入されようとしています。セメダインはこのような各国の法規制に対応し、各部署や海外協力会社と連携し、現地に法規制最新動向情報の収集を行い、より正確で確実な法令対応を取る体制を整備しています。2017年度は、2019年から運用が本格化される韓国の化評法\*での登録、台湾のTCSCA\*での登録、米国のTSCA\*でのインベントリリセット対応、およびREACHの対応に注力しています。

\*SAICM  
Strategic Approach to International Chemicals Management :  
2002年の国連環境計画管理理事会において決議された国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ。  
\*化評法  
韓国における化学物質の登録および評価などに関する法律。  
\*TCSCA  
Toxic Chemical Substance Control Act :  
台湾の行政院環境保護署が所管する毒性化学物質管理法。  
\*TSCA  
Toxic Substance Control Act :  
米国で製造/輸入される化学品(物質)を対象に環境保護庁(EPA)が定めている有害物質規制法。

### 輸出化学品への対応

#### 欧州(REACHへの対応)

2007年6月より施行されているREACHでは既存化学物質、新規化学物質の区別なく、年間1t以上欧州域

内で製造・輸入する化学品は一部例外を除き、安全性試験などのデータをつけて登録することが義務づけられています。欧州における製品の製造・輸入に支障が生じないように登録が必要な物質の有無を定期的に確認しています。

#### 米国

米国の新規化学物質の届出制度は、環境保護庁(EPA)所管の「有害物質規制法(TSCA)」および関連する連邦規則により定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を米国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

#### 韓国

韓国の新規化学物質の届出制度は、環境部所管の「化学物質登録及び

評価などに関する法律(化評法)」および雇用労働部所管の「産業安全保健法」に定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を韓国へ輸出する場合には、「化評法」に基づき法的手続きを実施しています。

#### 中国

中国の新規化学物質の届出制度は、国家環境保護局の「新規化学物質環境管理弁法」に定められています。既存化学物質リストに収載されていない物質を中国へ輸出する場合には、法的手続きを実施しています。

#### 台湾

台湾へ製品を輸出する場合には、「毒性化学物質管理法(TCSCA)」および「危険物及有害物通識規則」に従って対応しています。台湾では

2014年に新規化学物質の登録制度が導入されました。セメダインではこの新規化学物質登録制度に基づき法的手続きを実施しています。

### 紛争鉱物への対応について

コンゴ民主共和国とその周辺諸国で採掘される鉱物(タンタル、タングステン、錫、金)の一部が、人権侵害や環境破壊などを引き起こす武装勢力の資金源となっているとの懸念から、2010年、米国にて金融規制改革法(ドッド・フランク法)が制定され、米国上場企業に対し、それら鉱物の使用状況に関する報告義務が課されました。当社では、紛争鉱物対応に真摯に取り組む、顧客への情報開示を行うことが、グローバル企業として社会的責任を果たすことであると考えています。

## 製品の化学物質管理への対応

取り組みの視点・課題	2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標
国内法規制への対応 (化審法、毒劇法などへの対応)	●改正化審法への対応の準備	●セミナーなどを通じた改正化審法情報の収集と折衝	★★	●改正化審法への対応
	●毒劇法への対応の準備	●接着剤工業会を通じた毒劇法の収集と折衝	★★	●毒劇法の情報収集と迅速な対応
海外法規制への対応 (REACH、TSCAなどへの対応)	●REACH登録の推進	●REACH登録の推進	★★	●REACH登録の推進
	●TSCAインベントリリセットへの対応完了	●TSCAインベントリリセットの対応継続監視	★	●韓国改正化評法への対応 ●TSCAインベントリリセットへの対応完了 ●ベトナム新規化学物質登録制度の情報収集と対応

### 各種法定対応

#### 2017年度の取り組み(国内)

2017年度は、労働安全衛生法の改正、毒物及び劇物指定法令の一部改正、化審法の改正について適切に対応しました。各法令に指定された物質を含有する製品につきまして、GHSラベル表示の変更、SDSの交付などを新たに実施しました。

毒劇法については、法に準拠し必要な処置を講じております。本件によるところの管轄省庁、当局からの是正勧告は受けておりません。化審法の少量新規、低生産量新規に対する緩和処置の交付がなされ、2019年度の施行に備えてグループ内で周知を図りました。

### 各種法定対応

#### 2017年度の取り組み(海外)

2017年度は昨年に引き続き、世界的な化学物質に関する法改正に対応できるよう、様々なルートを通じて情報を入手し、仕組みの改善に取り組んでおります。

2018年度に期限を迎えるTSCAのインベントリリセットの通達と計画化、中国の危険化学品における法規制の動向、さらにベトナムにおける化学品管理の法令改正、その他フィリピン、韓国、台湾などのアジア諸外国における新規化学物質の登録概要をリスト化しました。

REACHについては、2018年5月の登録猶予期限を控え、輸出物質を

登録推進する他、ECHA(欧州化学品庁)や加盟国による物質評価への対応、高懸念物質や認可・制限物質などの情報収集などを継続的に行っています。

### 化学物質管理の教育

化学物質を適切に管理するために、化学物質を取り扱うすべての社員に対して、化学物質の有害性/危険性、適切な取り扱い方法ならびに化学品規制などの教育を行っています。

また、管理部門を対象とした、国内外の化学品規制コンプライアンス教育を定期的実施しています。

## 化学物質管理の研修を受けて



販売第八課(東京)の研修風景

今まで輸出に関する全体の流れをきちんと把握できていない点があったため、基礎から確認し、情報を整理する機会は非常に有意義でした。勉強会を通じて感じたことは、「ルールの複雑さ」です。健康や環境に関する多くの法律・規制などが、国ごとにそれぞれ定められているからです。しかし化学品を扱う以上、それらの法律・規制を必ず遵守しなければなりません。今後、輸出の手続きを行う際はトラブルが生じないように確認を怠らず、スムーズに対応していきたいと思えます。

今回勉強会に参加することでSDSの内容のポイントや諸外国の化学品の規制概要を学ぶことができ、法令によって判定基準の違いがあること、輸出国によってSDSにはどのような情報が事前に必要ななどを知ることができました。これらの情報は今後業務をスムーズにする上で重要だと感じました。今後も勉強会に積極的に参加し、さらに知識を増やすことで適切に業務を行いたいと思えます。

当社製品の海外輸出時における基本的な対応方法および進め方の外枠を掴むことが出来ました。製品を海外に輸出する際には各国の法律が適用されるため、まずは自分の担当顧客が海外輸出を行っているか否か、何の製品を輸出しているのかを確認し、その仕向け国においてどのような規制対応が必要となるのかを確認することから始めていきたいと思えます。また、当社ではアジア各国への輸出が現在大きな割合を占めているため、該当国市場に関する情報収集を行うと同時に、法規制についてもアンテナをはっていきたいと思えます。



販売第八課(東京)  
西澤 辰雄



販売第八課(東京)  
栗原 朝子



販売第八課(東京)  
櫻井 廣幸

## 化学物質の情報管理の強化に向けた活動

### 化学物質の管理について

セメダインおよびグループ各関係会社は、製品の開発から廃棄までのすべての過程において、環境関連物質による環境への負荷を低減するために、製品および製造時に使用する化学物質の管理を実施しています。

#### 1. 使用物質の把握・管理

製品により、下記の基準に基づき、使用物質の禁止、管理を進めています。

- 法規制
  - ↳ 化審法、労働安全衛生法、食品衛生法、PRTR法、RoHS指令、REACH等
- 用途
  - ↳ お客様の要求(お客様の化学物質管理規程等)
  - ↳ 当社の化学物質管理方針

#### 2. 開発における原材料の選定

製品の開発に当たり、上記の基準を踏まえ、不純物を含め、原材料の選定を行なっています。

#### 3. 購入原材料の管理

原材料に起因する、意図しない化

学物質の混入を防ぐため、「セメダイングリーン調達基準」を制定し、管理しています。

- 原材料メーカーに対し、環境関連物質の管理を含む環境管理システムの構築を依頼
- 購入する原材料のSDSによる情報収集および、1項の基準により制限を受ける物質の分析データおよび、「化学物質含有情報シート」の要求
- 不適合発生時の是正処置要求および効果の確認

#### 4. 製造における異物混入、不純物管理

- 製品の化学物質管理の要求レベルが製造現場で把握できる体制の確立
- 管理レベルの異なる製品の設備的分離又は、異物混入防止対策の徹底
- 異物、不純物混入防止作業の徹底とその教育の実施

#### 5. RoHS10物質の検査

カドミウム、六価クロム、水銀、PBB、PBDE、DIBPについては、既に全廃し、規制値を超える可能性は有りません。鉛、BBP、DBP、DEHP、についても限定された使用で使用場所も限定・管

理されています。これらを含む原材料を使用する製品もありますが、設備的分離又は、混入防止対策の徹底により、規制値を超えることなく管理しています。その上で、以下のように検査の頻度を定めています。

- 非鉛、非DEHP専用ライン製造製品は、定められた頻度で分析、安定した生産状態であることを確認
  - DEHP、BBP、DBP使用ラインでは改正RoHS規制対象製品は生産しない
  - 鉛化合物使用ライン製造製品は、すべての該当製品を分析、検査する
- 他の化学物質については、分析技術が未確立などの問題がありますが、当社に原材料を供給していただいている原材料メーカーと綿密な連携のもと、お客様のご要求にお応えできる管理状況となっております。

#### 6. SDSおよび製品ラベルのGHS対応

セメダイングループでは、世界各国で導入されている各国のGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推進しています。

GHSは、(1)化学品を危険有害性に

ラベルで表示し、(3)SDSに内容を記載し提供することを世界的に統一する仕組みです。

国内では労働安全衛生法で対象物質含有製品のラベルとSDSについてGHS化が義務づけられており、セメダインでは対象物質を含有するすべての製品について危険有害性を分類し、ラベル表示の対応を完了しました。SDSについては、すべての国内製品についてGHS化を完了しました。海外向けについてもEU、韓国、台湾、中国などGHSの法制化がなされた国への対応を完了しています。

#### 7. 含有化学物質情報の入手と提供

##### 7-1. グリーン調達ガイドラインの実施

セメダインでは、環境に配慮した安心できる製品を提供するため、「グリーン調達ガイドライン」を定め、製品の環境負荷物質管理や、原材料・包装材料の取引先の品質・環境管理の調査を行っています。具体的には、SDS

## 安全情報の提供

当社では、SDS、ラベル、イエローカードなどを通じて、製品の安全情報を提供しています。

#### 安全データシート(SDS)の活用

SDSは、化学品の取り扱い方法や安全性に関する情報を詳しく伝える文書であり、当社製品の安全に関する情報を提供する上で、非常に重要となっています。

そのため、顧客、販売代理店、輸送会社など、当社製品を取り扱う会社へ提出しています。

#### 改正労働安全衛生法への対応

2014年の労働安全衛生法の一部を改正する法律公布に伴い、SDSの提供が義務付けられている化学物質について、2016年6月1日からラベル表示の義務が課せられるとともに、事業者によるリスクアセスメントの実施が義務付けられました。この

や、chemSHERPA-CI/AI<sup>\*</sup>、環境管理に対する調査表の提出を求めています。さらには、製品を開発する際の重要配慮事項として、化学物質に関する国内外の法規制を調査し、RoHS指令や高懸念物質(SVHC)をはじめとする、使用禁止化学物質が含有していないことを確認しています。また、新製品のみならず、既存製品におきましても、随時、見直しを進めています。

\* chemSHERPA-CI/AI  
新情報伝達スキーム：  
製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情報伝達共通スキーム。

##### 7-2. chemSHERPA-CI/AIの作成

製品含有化学物質情報の伝達に関して、chemSHERPA-CI/AIのデータ作成支援ツールがリリースされ運用が始まり、セメダイングループも引き続き本格運用に向けて、関連部門と協力し、積極的に取り組んでいきます。

改正により、ラベル表示の対象物質が大幅に増加しましたが、セメダインではこの改正法令への対応を完了しました。

#### ラベルの表示

製品の容器に貼付するラベルには、GHSに対応した取り扱い時の注意点や安全性情報を、取り扱い者に向け簡潔に表示しています。

現在は、新JIS(JIS Z 7253)に基づくSDSの改定に合わせて、表示の見直しを進めています。

#### イエローカードの徹底

イエローカードとは、製品の輸送中の事故に備え、製品の適用法令、性状、応急処置や消防、警察、当社への通報連絡先などを、簡潔に記載した黄色地のカードです。

化学品を輸送する会社へ配付し、輸送時の携帯を徹底しています。

## 製品のリスク管理への対応

当社は、安全で高品質な製品をお客様にお届けするために、法令、規制の遵守はもとより、予防的アプローチの観点からも、製品の品質や安全性に関する様々な取り組みを行っています。

#### 新製品の適切な評価

当社では、研究開発のテーマ探索から、市場分析、試作、製品化に至る4つの段階で、詳細なDR(デザインレビュー)を行っています。

有害化学物質などの使用有無の確認、顧客の要求事項への適合性、および法令対応などについては、初期段階(DR1)から精査し、製品の安全性を第一とした開発に、取り組んでいます。



## 化学物質管理委員会の実施

工場・購買・開発・営業・品質など各部門が集まり、定期的(1回/月)に“化学物質管理委員会”を開催しています。

本委員会では、国内の法規制やお客様・業界個別のグリーン調達、近年増加している輸出にかかわる各国・地域の規則などの情報を各部門に伝達することにより、必要情報の周知・共有化を図り、迅速な対応ができるよう、各部門の役割分担を明確化しています。また、新規登録した原材料についても、各種法規制や取り扱い情報などの報告を行っています。

化学物質の取り扱いや製品の安全性など、リスク管理を先取りできるように、本委員会にて審議し、全社へ情報を発信しています。

## 分析の実施と技術の向上

主要製品については、定期的に外部委託にて、RoHS対象物質やハロゲン物質などの有害成分の分析を行っています。

社内分析については、開発・工場・生産技術・品質管理など様々な部門にて、F☆☆☆☆(JIS・JAIA・JSIA)のホルムアルデヒド分析や4VOC基準適合製品のVOC(トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン)分析など、多種多様に広がる分析の中から、それぞれ必要な分析を選定し、各分析の精度の向上を高めるとともに、信頼される測定対応に努めています。



JAIA F☆☆☆☆

JAIA 4VOC 基準適合

## 製品における環境配慮

化学物質に関連する法規制、お客様の環境調達(グリーン調達)方針や、その他の要請を考慮した自主的な使用化学物質の制限などを包含したものと、グリーン調達ガイドラインを策定し、製品開発の際の重要配慮事項とするとともに、既存製品の見直しも順次進めています。

## 建築用途製品での環境対応

当社における建築用接着剤、シーリング材の対応概要は、下記の通りとなります。

法規制等	対象物質	基準	製品への表示	
毒物及び劇物取締法	法、指定令の劇物	メタノール、トルエン、キシレン、ホルムアルデヒド等	意図的な使用の禁止(社内基準)	
労働安全衛生法	製造禁止物質	石綿(アスベスト)	CCSマーク(自主表示)	
厚労省指針	室内空気濃度指針値設定物質	ホルムアルデヒド等14物質 トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン	日本接着剤工業会基準 4VOC基準適合(JAIA)	
建築基準法	放散量(速度)規制物質	ホルムアルデヒド	JIS規格(建築用・木材用接着剤)	F☆☆☆☆(JIS)
			日本接着剤工業会基準	F☆☆☆☆(JAIA)
			日本シーリング材工業会基準	F☆☆☆☆(JSIA)

## CR査察(品質・安全・環境)の実施

安全衛生活動は各事業所単位で自主的に改善を進めていく活動ですが、その活動の状況を客観的に評価し、課題共有、改善指導、支援する仕組みとして、セメダインとして初めての試みとなる「CR査察(品質・安全・環境)」が2017年度よりスタートしました。

### CR(コンプライアンス リスク)

CR査察とは、セメダイングループの製造拠点において、操業状況を把握し、必要に応じて改善し、事故発生を未然に防止することを目的としています。査察の内容は、各事業所の安全衛生・環境・品質・コンプライアンスに関する活動状況を査察し、実施すべき事項が明確になっているか、計画を立てて実施されているか、実施レベル(実績)等を、査察委員が客観的にチェックして評価するもの

です。査察委員長を品質保証本部長、査察副委員長を生産物流本部長が務めています。査察対象事業所はセメダインおよび国内外グループ会社の各工場で国内5拠点、海外4拠点(CNL\*除く)です。

開始初年度は、査察対象活動の「品質・安全・環境」の中でも安全に重点を置いた査察になっています。特に各事業所トップが示す方針が明確になり全従業員に周知されているか、方針に沿って活動の年間計画が立てられ進捗管理されているか、活動の結果のパフォーマンスが見えるようになっているかということを重点的に査察し評価しています。

今後、このCR査察を継続的に実施していくことにより、セメダイングループ各事業所の安全衛生活動、改善活動を支援していくこととしています。



\*CNL  
CEMEDINE NORTH AMERICA LLC

## 2017年度の取り組み

### 国内

国内事業所では、従来からの5S活動、KY活動、リスクアセスメント、ヒヤリハット、教育訓練などの活動を継続的に行っておりますが、最近では実際に危険を経験したことのある作業者が少なくなってきたこともあり、危険への感受性が鈍くなっているという課題も出てきました。そこで、一部の

事業所ですが、危険体感設備により、はさまれや転落などの危険を疑似体験し、危険感受性を高めようという取り組みも行っています。

一方、近年セメダイングループの複数事業所において、特定の原材料などを取り扱う作業で、かぶれや化学火傷などの災害が発生し問題となっ

ていました。その対応として、従来の化学物質リスクアセスメントに加えて、かぶれ懸念物質を特定し、その取り扱いについて基準を定め、保護具の展示説明会などで啓蒙普及を図るなど、リスク低減を進めています。



### 海外

セメダイングループの海外製造拠点は、タイに2拠点と台湾、フィリピン、アメリカの計5拠点あります。2017年度は、この海外セメダイングループの全事業所において、ゼロ災害を達成しております。

ただし、海外事業所は、高温多湿の気候で日常的に静電気を感ぜないということもあり、プロセス事故、特に火災爆発リスクに対する意識が希薄な傾向があります。そこで、2017年度は具体的に火災爆発リスクの低

減対策を始めています。静電気対策として全事業所において帯電防止安全靴を導入しました。また、台湾では環境面にも対応した局所排気装置の更新強化を行っています。





# 環境への取り組み

## 環境方針の制定

2003年に、全社の環境活動の基本となる環境方針を制定しています。

### 基本方針

セメダイン株式会社は、全社員が環境の重要性と資源の有限性を認識し、その**保全・保護・改善**に不断の努力を行うとともに、**環境を視野に入れた企業発展**を目指し、**社会的責務と事業活動を両立した環境保全企業**を指向する。

### 行動指針

セメダイン株式会社は、「**接着剤・シーリング材**ならびにこれらの関連製品の**開発・生産・販売**」の事業活動において、その活動を地球環境の保護に調和させ、かつ**持続的発展の可能な環境保全型企業**実現のため、全社員が遵守すべき指針を以下に示す。

- 1 製品の開発から廃棄に至るすべての事業活動において、**環境・安全・健康**への影響に配慮することを経営の重点課題とし、**全社挙げてこれに取り組む**。
- 2 環境保護に対する社内体制の整備、**環境負荷低減目標**の設定、**環境保護活動**の推進に積極的に取り組むとともに、これらの活動を通じて**環境へのさらなる意識向上**を図る。
- 3 製品の**全サイクル**を通じ、**環境保護のための省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物削減**などの環境負荷低減に積極的に取り組み、その**継続的改善**に努める。
- 4 国・地方自治体・業界などが定める**環境関連規制**をよく理解するとともに、必要に応じて**自主基準を設定し**、これらの**規制・基準を遵守**する。
- 5 製品の**輸出や海外での事業活動**に際しては、**現地の環境保護・法令**等に配慮し、**必要な対策の実施**に努める。

## 環境マネジメントシステムの構築

2000年9月に三重工場、2002年3月に茨城工場において、日本化学キューエイより環境マネジメントシステム ISO14001の認証を取得し、活動してきました。

製造部門は、当社の中でも特に環境負荷の大きい部門ですが、両工場が歩調を合わせて、ISO14001のシステムに基づき、PDCAサイクルを回して継続的改善に取り組んでいます。

また、2018年9月には、衣浦工場を認証登録範囲に加え、環境負荷軽減への取り組みを強化しています。

### ISO14001定期維持審査と内部環境監査

環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得している茨城工場、三重工場、衣浦工場では、外部審査機関(日本化学キューエイおよびDQS Inc.)の定期維持審査を受けて、システムの定着・運用を確認しています。

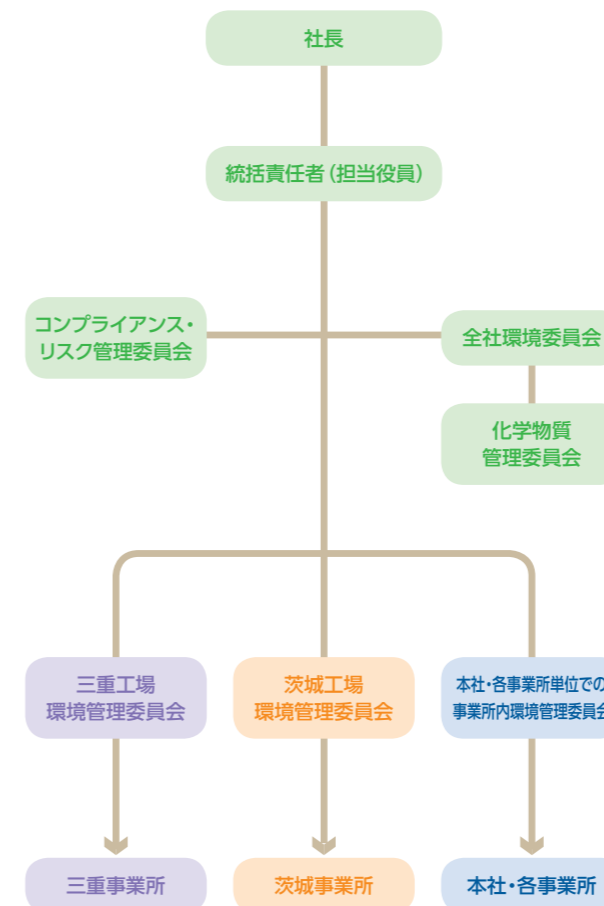
また、環境マニュアルで規定され登録承認された内部環境監査員により、全部署の内部環境監査を実施しています。

指摘や改善推奨事項が示された場

合には、迅速に是正しています。内部および外部で発見された指摘事項に対する改善を繰り返すことにより、継続的な改善向上を図っています。



## 推進体制の強化



## 環境マネジメントプログラムの策定

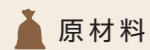
各事業所の環境管理活動の指針となる**全社環境マネジメントプログラム**を策定し、各事業所の活動の基準としています。

### 全社環境マネジメントプログラム

1	<b>資源・エネルギーの使用量把握と削減</b> ● 電力・重油の使用量を削減する。
2	<b>廃棄物排出量の把握と削減</b> ● 廃棄物を削減する。
3	<b>環境保全</b> ● 大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)排出量を削減する。 ● 環境法令を遵守する。 ● 建物・設備の導入・更新時に環境に配慮する。 ● グリーン購入を推進する。
4	<b>化学物質使用量の把握と削減</b> ● 有害化学物質の使用量を削減する。 ● 使用する化学物質の環境影響評価を行う。 ● 包装材料使用量を把握する。
5	<b>環境配慮製品の開発</b> ● 環境配慮製品の開発、販売を推進する。
6	<b>環境情報の公開と外部コミュニケーション</b> ● 環境活動内容を公開する。 ● 企業活動を通じて地域・社会へ貢献する。

# 事業活動と環境負荷

## INPUT



原材料

ゴム類	260t	有機薬品類	2,758t
樹脂類	9,984t	無機材料	13,518t
油脂・溶剤類	2,030t	その他	488t



電力 5,155千kwh



燃料 1,135kl

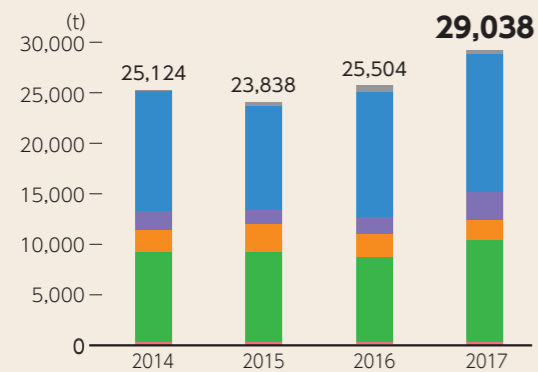


水 75,764m<sup>3</sup>

対象：茨城工場・三重工場・衣浦工場・セメダインケミカル株式会社 岡山工場

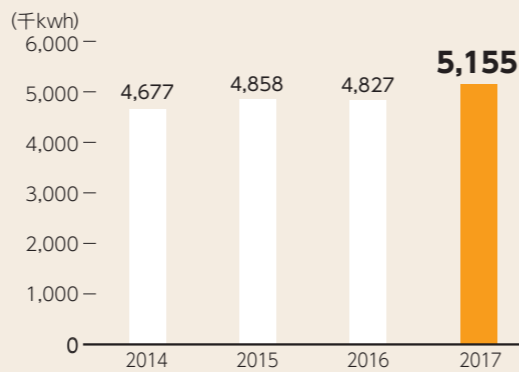
原材料

- その他
- 油脂・溶剤類
- 無機材料
- 樹脂類
- 有機薬品類
- ゴム類



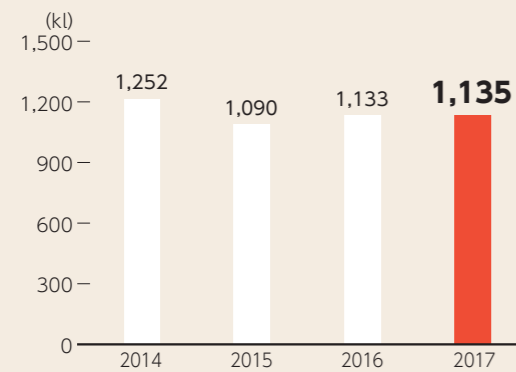
衣浦工場で生産している製品が加わったことにより、主原料である樹脂類並びに無機材料の購入量が増加しました。建築市場向け製品、工業市場向け製品、一般消費者市場向け製品の生産品目構成は大きな変化がありませんでしたので、構成している原材料の購入品目の傾向に大きな変化はありませんでした。

電力



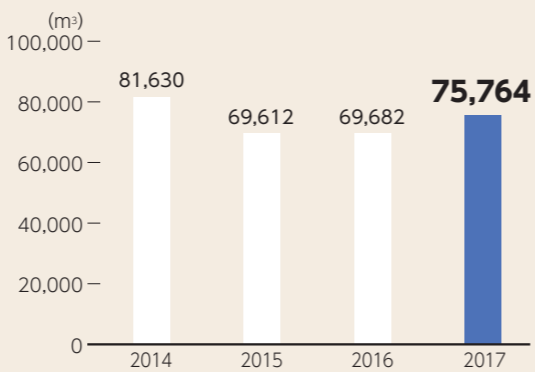
衣浦工場が加わったことにより電力量は増加しましたが、生産量あたりの電力量が減少するように取り組んでまいります。

燃料



衣浦工場では燃料としてのA重油の使用がほとんどないため、燃料の購入量は前年並みとなりました。

水



茨城工場の水の使用量が増加したこと、衣浦工場が加わったことにより、水の使用量が増加しました。

## OUTPUT



製品 28,456t



CO<sub>2</sub> 5,775t



廃棄物 1,496t



VOC (揮発性有機化合物) 11.0t

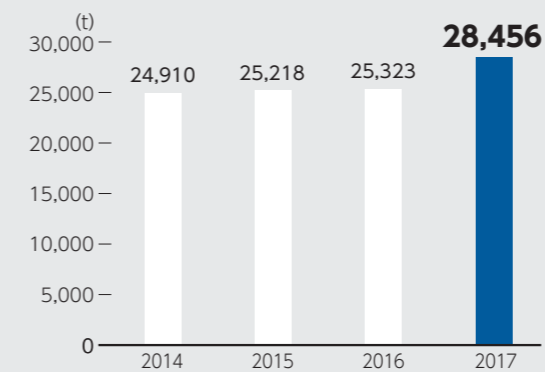
CO<sub>2</sub>排出量：電力燃料使用量より算出した数値。

VOC排出量：日本接着剤工業会の重点削減物質使用量に一定の係数を掛けた値。

[n-ヘキサン、シクロヘキサン、トルエン、キシレン、メタノール、酢酸エチル、アセトン、メチルエチルケトン、ゴム揮発油]

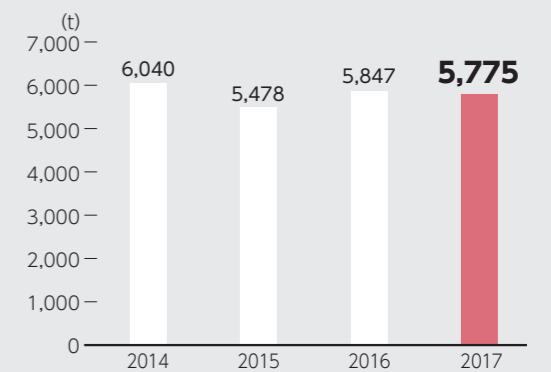
対象：茨城工場・三重工場・衣浦工場・セメダインケミカル株式会社 岡山工場

製品



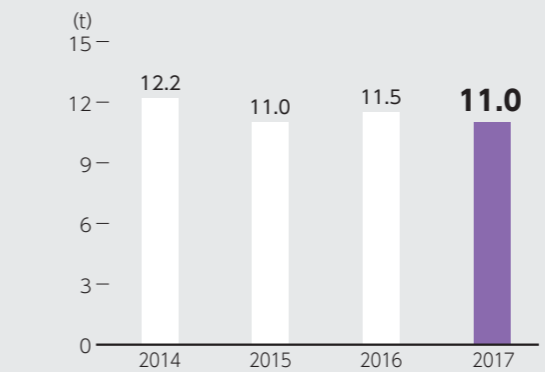
衣浦工場の生産量が集計に加わったため、製品の生産量が大幅に増加しました。

CO<sub>2</sub>



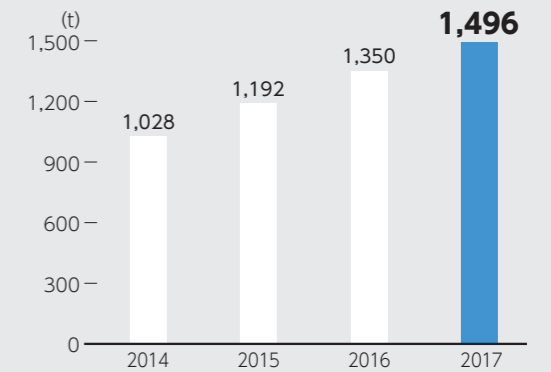
CO<sub>2</sub>排出量は72t(1.2%)減少しました。また原単位比でも12.1%の減少となっています。

VOC (揮発性有機化合物)



近年、溶剤形接着剤の生産量の減少に伴い、VOC排出量も減少傾向で推移しています。

廃棄物



工場から排出される産業廃棄物を含めた全体の廃棄物は、前年比の排出量で10.8%の増加、生産量に対する原単位比では1.3%の減少となっています。

# 環境マネジメントの定量的評価

○: 改善  
 △: 改善されているが不十分  
 ×: 改善できず  
 -: 評価なし

## 全社環境マネジメントプログラムの結果

	2015	2016	2017	目標	実績	自己評価
CO <sub>2</sub> 排出量 (t)	5,478	5,509	5,780	-	上段は、電力、A重油、ガソリンのエネルギーから算出、下段は温対法による報告書です。エネルギー起源のCO <sub>2</sub> 排出量は271t (4.9%) 増加しました。温対法により行政に報告するCO <sub>2</sub> 排出量も337t (6.1%) の増加となりました。尚、省エネ法によるエネルギー使用量の行政への報告値は、前年度の2,956klから2,594kl (原油換算値) に減少しました。	×
電力使用量 (千kwh)	5,257	5,481	5,651	工場部門:生産量原単位比で1%削減 事務所部門:1%削減	衣浦工場が集計範囲に加わったことにより総使用量は増加しました。一方、工場部門の生産量あたりの原単位は6.0%の減少、事務所部門では5.8%の減少となり、目標を達成することが出来ました。	○
A重油購入量 (kl)	1,004	1,044	1,047	生産量原単位 1%削減	購入量は前年度から0.3%増加しました。生産量当たりの原単位で13.2%の減少となり、目標である1%削減を達成しました。	○
VOC排出量 (t)	11.0	11.5	11.0	生産量原単位 1%削減	日本接着剤工業会の重点削減対象9種類の使用量(購入量)に、大気への排出値として1.05% (工業会の設定した基準値) を乗じた値です。近年、溶剤形接着剤の生産量の減少に伴い、VOC排出量も減少傾向で推移しています。	○
ガソリン購入量 (kl)	33	34	23	-	社用車の台数の減少並びに社用車の燃費向上により購入量は減少しました。	○
PPC用紙購入量 (万枚)	262	309	286	-	衣浦工場が集計範囲に加わりましたが、ファイリングシステムを導入の効果もあり、購入量は削減しました。今後も引き続き削減に努めていきます。	○
水使用量 (m <sup>3</sup> )	74,561	83,134	78,215	-	-	-
一般廃棄物排出量 (t)	42	44	39	年間100t以下	前年度並みで推移し、目標である年間100t以下を維持しています。	○
産業廃棄物排出量 (t)	892	1,018	1,120	年間生産量の5%以内	工場から排出される、製品の切り替え等で発生する産業廃棄物です。生産量に対する原単位は、前年度から4.6%減少しましたが、目標である5%以内は達成できませんでした。	×
有害廃棄物排出量 (t)	19	48	69	年間生産量の0.5%以内	工場から排出される特別管理産業廃棄物です。生産量に対する原単位は前年度から24.8%増加していますが、目標である0.5%以内は維持しています。	×
環境配慮製品の開発 (件)	51	17	42	-	色、規格などの重複を除いた、開発部で新規に設計、上市された製品の数です。	○
環境配慮製品の販売額 (百万円)	9,602	10,203	10,521	総売上金額の30%以上を維持	当社基準のCCSマーク品、JAIAのF☆☆☆☆品の販売金額です。売上高(22,164百万円)に対する比率は約47.5%であり、目標である30%以上を維持しています。	○
新規使用材料の環境調達基準適合確認 (件)	16	36	8	-	グリーン調達を進める中で、新しく採用する原材料の自社調達基準への適合を確認した件数です。なお、実施率は100%です。	○
環境関連の教育・訓練回数 (件)	13	57	64	-	主に工場部門での環境汚染防止などを含む訓練の回数です。	○
環境事故発生回数 (件)	0	5	0	-	工場内での異常発生回数です。なお、法令に抵触するような事故の発生はありません。	○
第三者監査・第三者監査 (件)	3	9	14	-	製品採用時の第三者監査が増加しました。	○

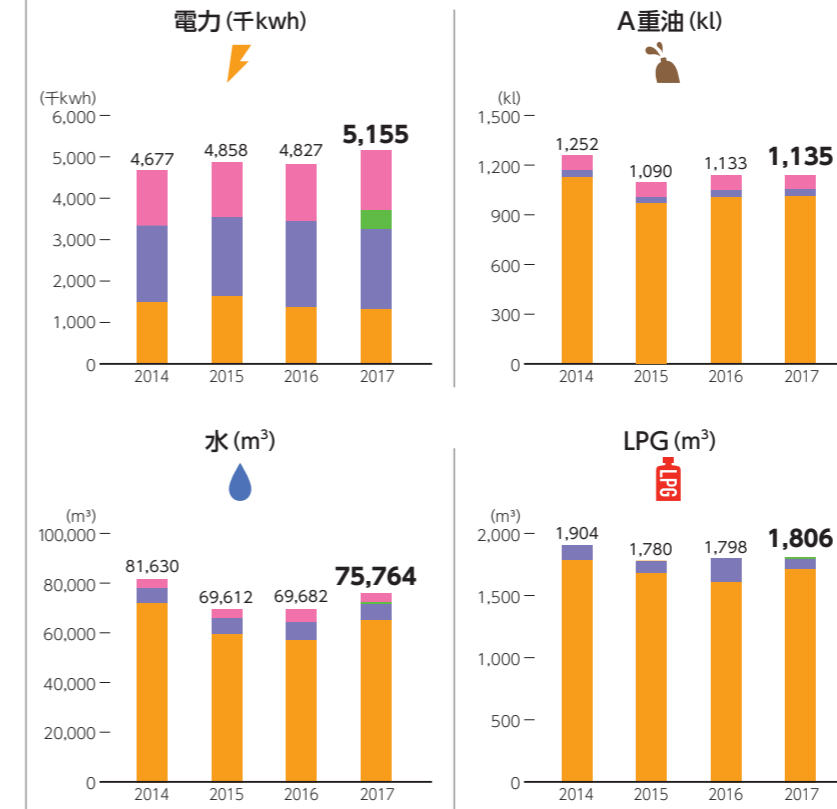
対象：茨城工場・三重工場・衣浦工場・開発センター・各事業所・各営業所

# エネルギー使用量・廃棄物の管理

## エネルギー使用量・廃棄物の実績

2017年度の廃棄物排出量は生産量の変動の影響で146t増加しました。生産部門全体で生産の効率化に努め、生産量1tあたりの廃棄物量は1.3%減少しました。今後も生産工程の改善を継続し、廃棄物の削減に取り組んでまいります。

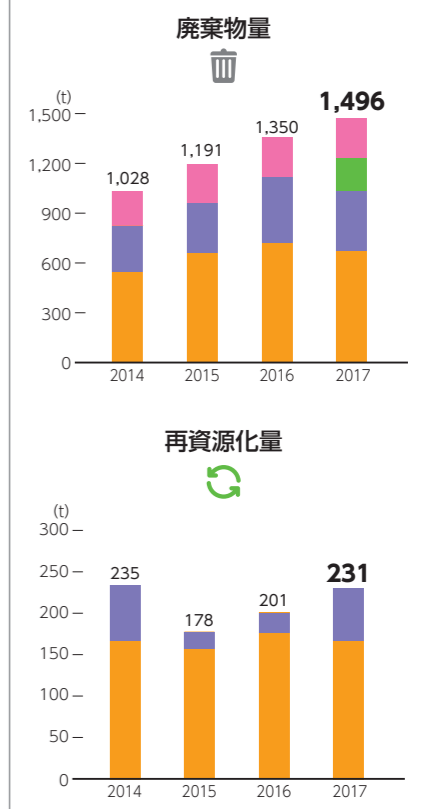
### エネルギー使用量実績



■ 茨城工場 ■ 三重工場 ■ 衣浦工場 ■ セメダインケミカル株式会社 岡山工場

衣浦工場:2017年10月～

### 廃棄物実績

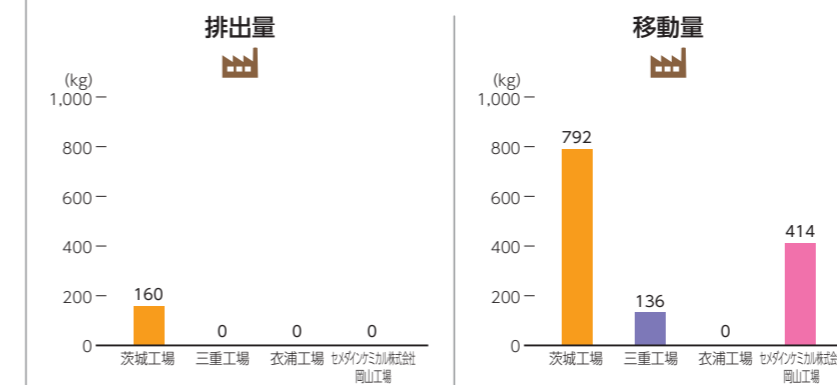


廃棄物		
引火性廃油(特管)	金属くず*	汚泥
廃油	木くず	廃石綿等(特管)
廃プラ	紙くず	PCB等(特管)

## 環境負荷の低減

化学物質の取り扱いおよびエネルギー使用において、環境負荷の低減の実現を進めています。

### 化学物質の適正管理 PRTR対象物質実績 (2017年度)



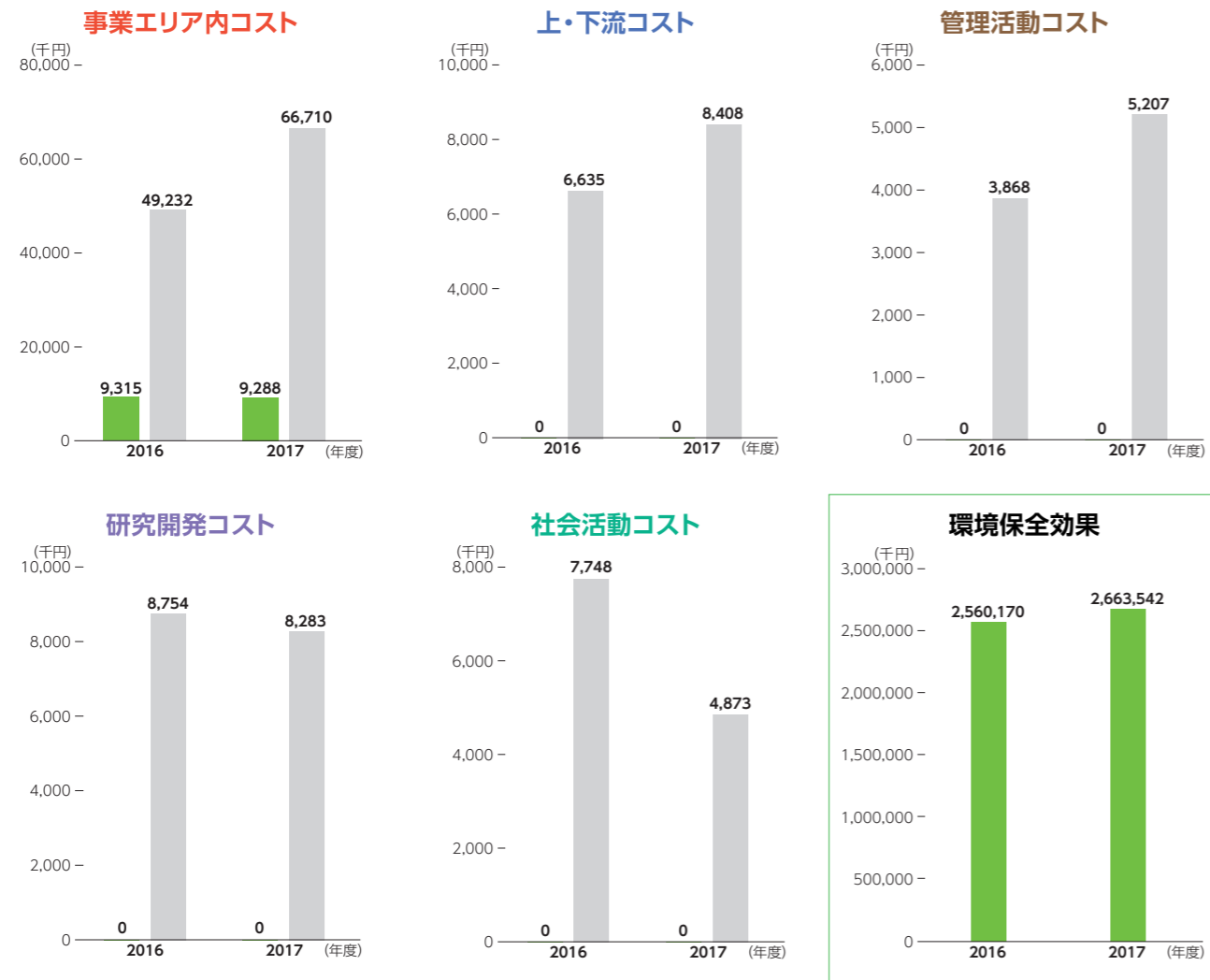
PRTR法詳細:

環境汚染の防止を目的に、各事業者が化学物質の管理に自主的に取り組むべき法律としてPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律1999年7月公布)が制定されました。この法律の規制のひとつとして、指定された取り扱いの化学物質の環境への排出(大気や土壌への排出)や移動量(廃棄された物)を国へ届け出ることがあり、これにより事業者は自主的に削減に取り組むことが要請されています。

(No.)	化学物質
1	亜鉛の水溶性化合物
134	酢酸ビニル
239	有機スズ化合物
265	テトラヒドロメチル無水フタル酸
298	トリレンジイソシアネート
300	トルエン
349	フェノール
391	ヘキサメチレンジイソシアネート
392	ノルマル-ヘキサン
405	ほう素化合物

# 環境会計

## 環境保全コスト



## 環境保全への取り組み

分類	主な取り組み内容	
事業エリア内コスト	公害防止コスト <ul style="list-style-type: none"> <li>● 霞ヶ浦工業用水使用</li> <li>● ボイラー点検・修理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンプレッサ更新</li> <li>● 浄化槽清掃・点検、排水測定</li> <li>● コンプレッサ点検・修理</li> </ul>
	地球環境保全コスト <ul style="list-style-type: none"> <li>● 集塵機フィルター交換</li> <li>● 照明交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空調機更新</li> <li>● 空調機修理・清掃・点検</li> </ul>
	資源循環コスト <ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物処理外部委託</li> </ul>	
上・下流コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 容器包装リサイクル委託</li> <li>● 環境配慮品用の製造設備設置</li> <li>● 製品の再商品化(再加工)</li> <li>● グリーン購入</li> </ul>	
管理活動コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境マネジメント</li> <li>● シルバー人材活用</li> <li>● 環境測定費</li> <li>● 草刈り</li> <li>● 保安講習</li> <li>● 塗装</li> </ul>	
研究開発コスト	● 環境配慮製品の開発費(分析用備品・備品消耗品の購入)	
社会活動コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ヘルマーク寄付金</li> <li>● 緑の募金</li> <li>● レスリング協会協賛金</li> <li>● 古河市花火大会協賛金</li> </ul>	

## 環境保全効果

分類	主な内容
エネルギー関連	● 節電、重油使用量の削減
廃棄物関連	● 有価物の売却
環境配慮品の市場展開	● 環境配慮品の製品利益



PEOPLE

# 人を大切にする

当社グループの社員一人ひとりが、能力を発揮でき、安全で安心して働くことができるように、制度・職場環境の整備を行うとともに、積極的に人材育成に取り組んでいます。

## Voice

### 人を大切にする上で意識していること

社員一人ひとりが、能力を発揮でき、安全で安心して働くことができるように、制度・職場環境の整備を継続的に行うとともに、積極的に人材育成に取り組んでいます。

### 人材育成について

人事異動などを通じて適材適所の取り組みを行っています。所有能力の評価や仕事への取り組みを評価している他に、本人の自己評価や希望を上司と面談の上、自己申告書として提出してもらい、適材適所となるように配置を行っております。また、外部契約教育機関やカネカグループの教育制度を活用することにより、教育を受ける環境を構築し、人材育成に役立つ取り組みを行っています。

### 多様な人材が能力を発揮できる職場づくりについて

当社の人事制度は、学歴・性別・新卒・中途採用などの区別なしに能力や実績による評価を行っています。また、短時間勤務制度・フレックス勤務制度などの導入や育児休暇などの子育て支援、傷病休暇などの休業者への対応、残業時間・休日出勤の規制、週休2日制の実施の推進などに努め、能力を発揮できる職場づくりの取り組みを行っています。

## 主な取り組み

グループ全体の人材育成

ダイバーシティ化への対応

吉原 徹  
人事総務部  
人事課 課長



# グループ全体の人材育成

## 人材育成の取り組み

### 広い視野を持った人材

当社では、当社の事業領域に広く通じた人材を育てることを一つの目的としています。新入社員の職種に

関わらず、工場や開発部などで幅広く研修を行い、担当分野以外の知見を持つことを大切にしています。このことは人事異動を通じた育成でも大

切にしており、年2回の評価および年1回の自己申告制度を用い、適性を見極め配置しています。

# ダイバーシティ化への対応

## ダイバーシティへの取り組み

### 柔軟な働き方

雇用情勢が活況であり、優れた人材に当社で働きたいと思ってもらうことの重要性は日に日に高まっています。当社においては、労働時間設定に柔軟なパートタイム制度を取っており、子育てをしながら働かれる主婦の方など、人生経験豊かな人材に働きやすい環境を構築しています。今年度は改正労働契約法にも対応しましたが、今後も正規・非正規問わず長く働いてもらえるような就業環境の構築に努めます。

### 雇用・採用の状況

2017年度は9人の新入社員を採用しました。うち3名が技術系、4名が営業系、2名が技能系となっています。男女比は男性7名、女性2名でした。他社で経験を積まれたエキスパートの中途採用も積極的に行っています。また、本年度は子会社のセメダインオートモーティブ(株)を合併し、大勢の仲間を迎えたことで、以前より社内が活気づいています。

### ワークライフバランスの推進

既に雇用している社員のワークライフバランスを高く保つことも当社の重要な責務と考えています。今年度はフレックス勤務適用期間について、今まで社員の子どもの小学校入学までであったところを小学校卒業までに伸ばし、仕事と子育ての両立をより推し進めました。社員のニーズにあった働きやすい会社をこれからも実現していきます。



### リフレッシュ休暇を取得して

当社はワークライフバランスの推進に力を入れており、私も昨年度、勤続20年のリフレッシュ休暇をいただきました。この制度の目的は、長期間勤めた社員に対するご褒美とともに、常に働き続けることによるマンネリ化で逆に生産性が低下したり、集中力を失ったりしてしまうことを防ぐ「自分を見直す期間」としての意味もあります。営業職という立場ながらサポートメンバーの方々からフォローをいただきながら、おかげさまで心身ともにリフレッシュすることができました。誰もが加齢によるパフォーマンスの低下は避けられないとはいえ、定期的に心身のメンテナンスをしながら日々仕事を継続することによって、さらに会社に貢献することができるようになるのだと感じております。



販売第八課(名古屋)課長  
中澤 英隆



SOCIETY

# 社会から必要とされる企業であり続ける

当社グループは、常に地域社会に根差した企業として、事業所が地域の方々とのコミュニケーションを大切にし、地域との積極的な交流に努めるとともに、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

## Voice

### 地域社会への貢献

セメダインでは、「人を大切に、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献する」という企業理念に基づき、地域社会への貢献に積極的に取り組んでいます。人事総務部人事課では、将来の職業選択に向けて前向きな気持ちを醸成できればと考え、近隣の学校を迎えて、仕事のやりがいや将来の職業観について生徒と一緒に考える受入授業や職場見学など、次の世代を担う若者たちへの教育の場を提供しています。様々な大きな夢を持っている生徒たちですが、色々な働き方がある中でも「会社人」として働くことにも意義があることを知ってもらえれば幸いです。

## Voice

### 情報開示について

当社の企業理念を体現すべく、当社の活動をより多くの方に知っていただくため、「社会・環境報告書」と並び、人事総務部総務課では、ホームページのプレスリリース、東京証券取引所や株主総会などを通じて、業績報告、株主様向けのご報告、新しいコンセプトの商品、新事業の展開など、様々な当社の情報を適時適切に開示しております。これらの情報がステークホルダーの皆様にとって、当社に対する理解をより深めていただく一助となるよう、情報開示のあり方の検討やブラッシュアップを継続してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 主な取り組み

地域社会への貢献

適時適切な情報開示



人事総務部  
大谷 洋介



人事総務部  
岸 崇

# 地域社会への貢献

## 地域貢献活動

### 次世代育成支援

次世代育成支援とは、次世代育成支援対策推進法の施行により、2011年4月1日から一般事業主行動計画を策定し、届け出ることが義務付けられているものです。

当社でも、2012年11月末から2015年3月末までの3年間、3つの目標を立てて推進してきました。

「子育てを行う社員等の仕事と家庭の両立を支援するために雇用環境の整備」について、目標1として、「小学校就業前の子供を育てる社員が、フレックスタイム勤務制度を利用できる措置の実施」を挙げました。

また、「その他の次世代育成支援対策」としては、目標2として、インターシップなどの就業体験機会の提供の充実、目標3として、子供が保護者である労働者の働いているところを、実際に見ることができ「子供参観日」の定着を挙げました。

当社では、目標1～3までを計画期間内に実施することができました。

### 自衛隊後援会様の工場見学会を実施

茨城新聞で紹介された当社の記事をご覧になった神栖市自衛隊後援会様より、当社の接着剤製品は生活で欠かせない身近なものであり、興味が高いことから工場見学のご依頼があり、工場見学会を実施しました。

### 岡山県総合教育センター研修講座を実施

岡山県総合教育センターのご依頼により、高等学校理科担当教員としての指導力の充実と資質向上を図るため、研修講座を実施しました。



### 県立高等学校の工場見学会を実施

県立高等学校の進路指導の一環として、茨城工場の見学会を実施しました。2017年度は3校実施し、進路意識を高めるお役に立てたと思います。

### 献血を実施

茨城工場では年2回献血を実施し、多数の社員が献血に協力しています。今後も積極的に協力していきます。



## 2017年度地域貢献活動

2017年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2018年 1月 2月 3月

### 小学校入学記念品の贈呈

2015年4月より茨城工場のある古河市の小学校に入学する一年生に、お祝いとして木工用接着剤を贈呈しています。2017年度は4月に茨城工場長から針谷古河市長への贈呈式を、古河市庁舎で行い市長からも直接お礼の言葉をいただきました。



### 岡山工場周辺道路の清掃活動を実施

セメダインケミカル(株)岡山工場では、地域社会とのコミュニケーション活動として、地域清掃、工場見学などを行っております。



### 茨城工場周辺の清掃活動を実施

茨城工場は年2回工場周辺の道路および歩道の清掃活動を実施しています。清掃は各職場から参加し、タバコの吸い殻や空き缶、ペットボトルなどのゴミを回収するなどの清掃活動を実施しました。



### 防火防災訓練を実施

茨城工場は防火訓練を毎年3月と11月に実施し、工場内で火災が発生した想定で、消火器による初期消火、人命救助、工場消防隊による放水訓練を行っています。防災訓練は毎年8月に実施し、地震発生時の避難訓練と、材料が漏えいした場合の流出防止訓練を行っています。



### 消火器取り扱い訓練を実施

茨城工場では、いざという時に使い方を知らず、慌ててしまうことがないように、消火器を使用したことがない社員を対象に年1回、消火器取り扱い訓練を行っています。今後も万が一の非常事態に備えて、このような訓練を定期的に行っていきたいと思っています。



### 大崎中学校 職場見学受け入れ

地域貢献活動の一環として、2018年3月2日に品川区の大崎中学校第七学年の生徒の職場訪問受け入れを本社にて開催いたしました。当社の事業内容や当社での働き方についてレクチャーし、生徒さんに「将来の自身のあり方」を考えていただくとともに、具体的な職業観を養っていただく場を提供できたと思います。



## 適時適切な情報開示

### 情報開示に関する基本方針

当社では、ホームページや事業報告書などを通して、株主・投資家の皆様に適時・適切な情報開示を行っております。投資判断に影響を与える決定事実や発生事実に関する情報、決算に関する情報、既に開示した重要な内容について訂正・中止などが行われた場合に情報開示を行います。

また、経営上の重要事項に限らず、トップインタビューや当社の歴史、製品に関するコラムなどについても、投資家の需要に応えるべく、出来るだけ積極的かつ公平に開示し、当社についてご理解いただけるよう努めております。

### 適時開示体制の概要

当社における会社情報の適時開示に係る現行の社内体制は、管理本部長を情報取り扱い責任者に据え、法令および東京証券取引所の諸規則を遵守し、適時適切に開示を行うよう努めております。

投資判断に影響を与える決定事実および発生事実については、情報取扱責任者を中心に開示が必要か否かを検討し、開示が必要な場合は迅速に行うよう努めております。

### IR情報の開示

当社ではホームページを利用して、広くステークホルダーの皆様向

けに、決算情報やニュースリリースなどの開示を適時適切に実施しております。

また、半期に一度、株主の皆様へ事業報告書を送付し、トップメッセージや事業の概況についてお知らせしています。



事業報告書



当社ホームページ  
<https://www.cemedine.co.jp/>

### IRスケジュール

5月 決算発表

6月 定時株主総会

8月 第1四半期決算発表

11月 第2四半期決算発表

2月 第3四半期決算発表

※公表すべき重要事実が発生した場合は、適時に情報開示を行います。

### 利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益配当を、経営の最重要課題の一つとして認識しております。株主の皆様への利益還元を重視しつつ事業の成長および企業体質強化のための内部留保の充実を総合的に実現すべく、継続的な利益確保とバランスのとれた安定配当を行うことを基本方針としております。

### 株主総会

当社は、株主総会を株主の皆様と経営者との対話を行える貴重な場として、認識しております。そのため、株主の皆様が株主総会議事事項について検討を行う十分な時間を取るように、招集通知の早期発送やWEB開示に取り組んでいます。

また、事業報告をよりわかりやすくする工夫として、報告事項のビジュアル化に取り組んでいます。



CORPORATE VALUE

# 企業価値の 継続的向上に取り組む

お客様、株主・投資家、取引先、社員、社会、環境など、企業をとりまく様々なステークホルダーとコミュニケーションを図りながら、社会の期待と信頼に応えられる体制を構築してまいります。

### Voice

#### 企業価値とは、様々なステークホルダーとの コミュニケーションで意識していること

企業価値の継続的向上は、企業に与えられた義務であると考えられます。当社においても企業価値が向上しなければ、顧客に接着ソリューションを届けられませんし、株主に配当もできませんし、従業員を雇用することもできません。その企業価値を高めていく方法の一つが利益を継続的に伸ばしていくことだと考えております。

セメダイングループが利益を継続的に伸ばしていくには、様々なステークホルダーと関わっていく必要があります。しかしながら、各ステークホルダーの利害が一致しないこともあります。例えば、顧客サービスを充実させるために従業員に負担を強いることもあるでしょうし、当社とグループ会社で意見が異なることも珍しくはありません。また、セメダイングループは海外にもグループ会社があるため、日本での常識が現地では通用しない場面も数多くあります。

このように様々なステークホルダーと関わりながら利益を継続的に伸ばしていくために意識していることが2つあります。1つは、積極的にコミュニケーションを取っていくことです。相手のことをよく理解し、自分のことを理解してもらうことが、互いの成長に必要な不可欠であると考えております。もう1つは、バランスの取れた判断を心掛けることです。偏った判断は一部のステークホルダーが不利になる可能性があります。継続的な成長には、当社だけでなくすべてのステークホルダーの利益を考慮する必要があると考えております。

今後も様々なステークホルダーを意識しながら業務にあたり、セメダイングループの企業価値向上の一助になるよう努力していきたいと思っております。

### 主な取り組み

コーポレート・ガバナンスの強化

コンプライアンス、リスクマネジメント

グループ全体の品質・安全への取り組み

経営企画部  
グループ戦略企画課  
荒井健太郎



# コーポレート・ガバナンスの強化

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

東京証券取引所による「コーポレート・ガバナンスコード」の策定、推進などにより、コンプライアンス体制を構築し、株主や投資家を守り、企業価値を高めて、持続的な発展を達成する体制を構築することは、今や上場企業に限らず、あらゆる企業の取り組むべき課題となっています。

当社グループでは、こうして構築されたガバナンスの上に、ニーズを先取りした製品の開発や継続して利益の出る企業体質を実現することにより、お客様や原材料メーカーとの安定的なお取引、社員の雇用継続など、当社とかわりを持つあらゆる人々に利益を提供するとともに、製

品の安全や地球環境の保全についても重視し、安心して長くお付き合いのできるような企業を目指しています。

## CSRを支える体制

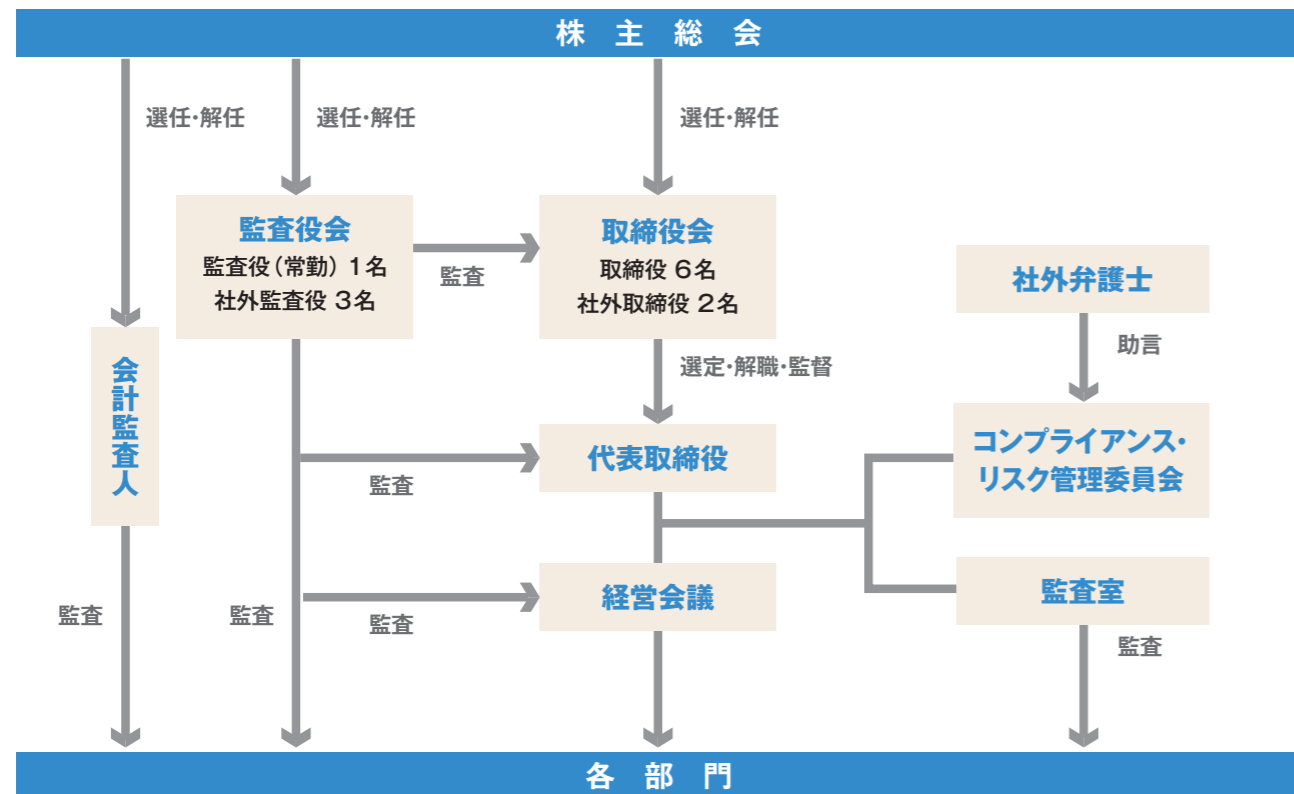
内部監査は、取締役会により構築されたガバナンスとリスク・コンプライアンス体制の下、内部監査人協会 (IIA) の「内部監査の専門職の実施の国際基準」に準拠し、経営目標の効

果的な達成に役立つことを目的としております。

全部署を対象とし、内部監査規程およびリスク評価に基づいた監査実施計画を立案し、合法性と合理性の

観点から、公正かつ独立の立場で、業務の遂行状況を評価しています。必要に応じ、被監査部署に改善や是正を提言するとともに、監査結果は、定期的に取り締役に報告されます。

コーポレート・ガバナンス体系図



## 社外取締役 メッセージ

社外取締役  
小町千治



会社の社会責任については、CSRなどの単一の言葉で表現しきれないほど重要な時代に入っています。

勿論、もっとも重要なものの一つが環境対応です。気象変動による自然災害の大規模化は、環境問題の深刻さを痛感させるものです。

外部環境に与える影響、反対に外部環境から受ける影響。これは、自然面だけでなく、経済面や社会面も含めて考えなくてはなりません。

そして、周辺社会、社内、勿論もっとも身近な家庭も含めて、自らの行動は適切か。社内の仲間を含めて胸を張れるか。これを確りと追求し続ける会社が社会的に評価を得られるのだと思います。

萎縮するほど恐れる必要は全くありません。正しいこと、常識的なことを積み上げて行けば良いのです。

社外取締役を務めさせて頂き4年になろうとしています。この間、当社は、カネカグループの一員となったことに加え、内外での事業再編など市場の変化に的確に対応してきており、企業価値は着実に向上していると実感しております。また、個人的には、これまでの経験を活かし仕事の紹介に努めるなど、若干ではありますが、売上にも寄与させて頂きました。

昨今は、コーポレート・ガバナンスコードや国連のSDGs<sup>\*</sup>においてサステナビリティを巡る課題への適切な対応が求められるなど、中長期的かつ持続的な成長のためにはESG<sup>\*\*</sup>を考慮することが重要であるという認識が一層広がっています。

当社としても、創業以来培ってきた高度な接着技術を通じ、持続可能な社会の実現に貢献できるものと確信しております。また、創業100周年に向けた「セメダインプライド23」の実現により、ブランド価値がさらに向上することを期待しております。

<sup>\*</sup>SDGs  
持続可能な開発目標：  
2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

<sup>\*\*</sup>ESG  
「Environmental (環境)」、「Social (社会)」、「Governance (企業統治)」の3つの頭文字：  
各分野への適切な対応が会社の長期的成長の原動力となり、最終的には持続可能な社会の形成に役立つことを示した投資の判断基準の一つ。

社外取締役  
及川隆夫





# コンプライアンス、リスクマネジメント

## セメダイングループ行動規範

### 基本理念

セメダイングループの役員及び社員は、業務遂行にあたり、法令・社内規程等を遵守するとともに、公正と秩序、誠実と信頼をモットーとし、良識ある社会人として行動する。

### 遵守事項

- 1 法令等を遵守し、業務上の都合を優先させるようなことはしません。
- 2 就業規則その他の社内規程等を守り、互いに人格を尊重し、就業環境の向上に努めます。
- 3 社会と社員の安全を最優先します。
- 4 業務遂行に当たり、リスク要因の情報収集と未然防止に努めます。
- 5 取引先には誠実かつ公正に接し、信頼される取引関係を築きます。
- 6 業務上知りえた情報や第三者の知的財産権等を適切に取り扱い、インサイダー情報、個人情報及び社内機密情報を漏洩しません。
- 7 反社会的勢力には毅然として対応し、一切の関係を遮断します。
- 8 行動規範に反する発言や行動に気づいた場合は、是正に努めるとともに、速やかに上司またはコンプライアンス・リスク管理委員会に報告します。

## コンプライアンスの推進体制について

コンプライアンス維持のための組織として、コンプライアンス・リスク管理委員会を設け、各部門長をコンプライアンスオフィサーに任命して自部門のコンプライアンス責任者としています。

コンプライアンスリスク防止のための基本規程として、セメダイングループコンプライアンス・リスク管理規程を定め、グループすべての社員にコンプライアンスの徹底を図っています。特に、セメダイングループコンプライアンス・リスク管理規程にて規定しているセメダイングループ行動規範は、小冊子として全社員に配布し、常に携帯を義務付けています。さらに月に一度は部や課の朝礼・会議などの機会に基本理念と行動指針を読み上げて、周知と徹底を図っています。

### BCPについて

事業継続計画(BCP)については、緊急事態の発生をリスクとしてとらえ、コンプライアンス・リスク管理委員会が主管となって推進しています。

東日本大震災の教訓をもとに、本社での緊急事態発生時の体制整備、緊急事態における各部門の役割の明確化とその準備、各工場・物流拠点との連携と指示などを、明確にしたBCPマニュアルを整備しています。

また、本社以外の各拠点(大阪・名古屋事業所、茨城・三重工場)での緊急事態発生時の初動体制なども検討を行い、シミュレーションによる全体訓練を検討しています。

### 情報管理の取り組みについて

当社の情報管理については、基幹システムを社外サーバーセンターに設置し、外部から保護された環境において、すべての業務処理を、そこで集中実施しています。

また、USBメモリーなどの情報媒体による情報の移動を禁止し、情報漏えいの防止を行っています。

各システムのセキュリティ管理については、情報統括室が一括で管理を行い、外部からのウィルスの侵入や不正アクセスの防止に努めています。

個人情報についても、各部門にて

厳格に管理されており、その管理状況については、毎年監査室によって内部監査が実施されています。

### リスクマネジメントの考え方

当社のリスクマネジメントとしては、コンプライアンス・リスク管理委員会にて、年に二度各部門が自らリスクの調査を行い、新たに発見されたリスクに対して対処を行い、コンプライアンス・リスク管理委員会に報告しています。

また社長を委員長とする内部統制委員会を設けて、会社の各機能(販売、購買、製造、決算など)について仕事の流れを明らかにし、業務記述書を作っています。

その業務に対してリスク(不正が起る要因)とコントロール(不正が起らないように行う統制行為)を調査し、特に重要なコントロールをキーコントロールと指定して公認会計士とともに内部統制委員会が監査を行い、その結果を社長名にて内部統制報告書として関東財務局へ報告しています。

# グループ全体の品質・安全への取り組み

## 当社グループの品質保証体制の構築

当社グループは、製造拠点を国内に5拠点、海外に5拠点持ち、個人のお客様向けの製品から、建築現場や電子部品、車載部品向けまでの多種多様な製品を作り、国内のみならず海外でも、幅広い分野でご利用頂いております。お客様に、安全な製品を確かな品質でご提供できるよう、ISOによる品質管理システムを基に運用、継続しておりますが、今後も水準を高めつつ、当社を取り巻く環境に対応すべく、見直しも行っていきます。

### 当社の品質保証について

当社が製造販売している接着剤、シーリング材には有効期限があります。適正な温度で輸送、保管しないと使用前に硬化してしまうものや品

質に影響がでる場合があります。

これまで国内で流通、ご使用いただいている場合には、温度管理に起因する問題はあまり起こりませんでした。海外の様々な環境下での使用が増えるにつれ、流通・保管の温度による不具合が増加しており、その対応として、当社では工業用接着剤の一部で冷蔵輸送・保管の取り扱いを実施しています。

品質を保証すべく、より良い状態で製品をお届けするためにも、これからも品質にこだわり、変化していきます。

### 原材料メーカー、製造委託会社への監査について

より良い製品を安定的に製造する

ためには、品質の確かな原材料の使用は必須条件となります。また多品種の製品を製造供給すべく、他社へ製造、充填を委託している製品もあります。そのため定期、不定期で原材料の各メーカーおよび製造委託会社に対し品質監査を行っております。製造場所・工程の変更もその対象となり、品質が常に一定に保たれていることを一つひとつ確認して、もの作りを行っています。

## 国内の品質管理体制の構築

セメダイン茨城工場、三重工場は、品質マネジメントシステムの国際基準とされるISO9001を取得し、長年にわたって維持を継続して、品質管理の基準としています。

製品の品質管理のもう一つの基準として、用途、種類ごとに定められているJIS規格がありますが、当社は、建築用接着剤、木材用接着剤、建築用シーリング材、一般工作用接着剤の計11規格を取得して、製品づくりに活かしています。

当社の代表製品の一つである「セメダインC」も、一般工作用接着剤のJIS認証製品です。また、グループ会

社であるセメダインケミカル株式会社(岡山工場)も当社製品を製造するため、同等の品質管理体制を整備しています。ISO認証は取得していませんが、社内の管理基準は当社に準じています。また、建築用接着剤、建築用シーリング材に関する3規格のJIS認証を取得し、セメダインと同等の製品を製造できる体制としています。

### 第三者監査への対応

近年は、製造のプロセスが妥当であるかを重要視し、なおかつそのプロセスで製造された製品が品質規格を十分に満足していることを、要求さ

れるお客様が増えています。製品の製造工程の確認に工場を訪問されるお客様も増えていますが、その都度、直接の言葉でご指導を頂き、工程、設備の改善を進めることで、より良いものづくりにつなげることができると考えています。

お客様から頂いたご指摘は、他のお客様の要求にも通じる場合が多いことから、水平展開や標準化を念頭において対応を進めています。直接工場をご覧頂いて、安心して頂けることが、「信頼されるものづくり企業」の条件であると認識して、今後も改善活動を継続してまいります。

## 労働安全衛生法の徹底

### 取り組み

すべての事業活動において安全作業を継続していくため、法令遵守はもちろん、必要に応じて自主基準を設定して安全衛生レベルの向上に努めて

います。各事業所においては、安全衛生活動を推進していくための組織体制を整備し活動を展開しています。さらに、事業活動におけるすべての面で5S活動やリスクアセスメント活動な

により継続的な改善活動を行っています。

# サイトレポート

セメダイングループの企業価値向上のために「大切」にしていること



私が仕事をする上で大切にしていることは、コミュニケーションです。札幌営業所の窓口として日々お客様のご要望に対応するにあたり、可能な限りの情報を共有し、営業の方のサポートが出来たらと思っています。

札幌営業所  
梶澤 京子



生産をする中で、一番に取り組むテーマとしては製品の良品率と生産効率の向上を目指すこと、そして廃棄物の削減には工程ロスの削減および不良品を出さない様にモノづくり活動に取り組んでいます。

茨城工場 製造課 課長  
荒木 政和



技術開発に身を置く者として、最も大切にしていることは「共有」です。部門内で知見を共有することはもちろんですが、仕事の温度感を皆で共有することが最も大事なのではないかと思っています。

開発部研究第三グループ  
岡部 祐輔



仕事をするうえで大切にしていることは、「スケジュール管理」です。生産技術開発や設備投資案件の対応など他部門と連携しながら進捗していくことが重要と捉えて日々の仕事に向き合っています。

生産技術部  
阿部 秀幸

仕事をする上で大切にしていることは、お客様との信頼関係です。お客様の状況やニーズを把握し、適する製品を提案することで信頼関係を構築し、新規採用と継続的な受注につながるよう努力しています。

仙台営業所  
大橋 尚弘

当社行動規範の遵守事項2にある通り、他の社員と「互いに人格を尊重」することを心がけています。個人的な感情や偏見を排除し、あらゆる人の考えを吸収することで、新しいアイデアを捻出しやすくなると考えます。

品質管理部 品質管理グループ(茨城)  
鶴見 知洋

ユーザーのことを考え、テーマに取り組むことです。特定ユーザー向け、汎用向け接着剤両方に携わっていますが、相手が何を求め、現状何が足りないかを考えながら仕事に取り組むようにしています。

開発部 研究第二グループ  
石原 菜穂子

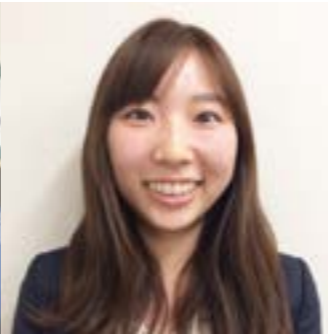
物事全体を俯瞰し、最適な打ち手は何であるかを考え行動し続けることです。それを実現し成果を得るため、対応の速さ、細かさ、先を考えることを常に意識するようにしています。

販売第八課 統括課長  
鳥畑 学



私が仕事をするうえで最も大切にしていることは、人と人との関係を大切に、常に感謝の気持ちを持ち、ひとつひとつのお客様からの要求に対し丁寧に対応し信頼を得ることをモットーに取り組んでいます。

販売第八課(東京)  
小林 忠雄



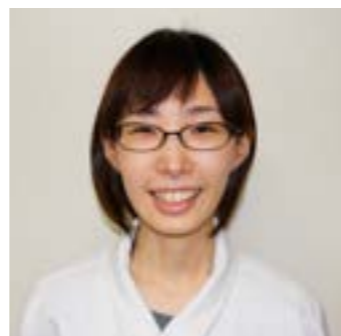
「困ったときは様々な人に相談すること」です。知りたい内容ごとに尋ねる相手を選ぶことで、より詳しい答えが聞けるだけでなく、他部署の方とのコミュニケーションも自然と増えるからです。

販売第八課(東京)  
大島 真梨乃



私が仕事をする上で大切にしていることは、調和です。問題解決や改善を行う事は一人では不可能です。様々な立場の方の意見をよく聞き、最良な着地点へととりまとめられる様、日々努力しています。

品質保証部 品質保証グループ(衣浦)  
中村 斎



大切にしていることは「三方よし」という精神です。顧客と永く付き合える関係というのは、誰かに無理がかかる状態ではなく皆が良い状態というのが一番永く続けられる関係だと思っています。

販売第一課(名古屋)  
楠 文晴



営業として常日頃からお客様に様々な提案をしていますが、中には接着剤を使用するのが初めて、もしくはセメダインの製品を使用するのが初めてというお客様もいらっしゃるの、先方が抱えている疑問や不安を解決できるような提案を心がけています。

販売第八課(大阪)  
山本 純也

私が、仕事をするうえで心掛けていることは、仕事の優先順位をつけることです。対お客様、代理店様などを優先させ、時間の配分を考え、その他の業務に関してもなるべく無駄の無いよう動くように心がけています。

東京八課(東京)  
川村 規介



仕事をする上では、工夫とカイゼンを大切にしています。事務的な作業や資料の作成などについても、効率よく行なう方法を考える、見やすいものを作るなど、常に改善を心がけるようにしています。

衣浦工場 工場長  
水野 政幸



私が仕事をする上で大切にしている事は、顧客への迅速なレスポンスです。自動車産業は特に、限られた時間内に解決しなければいけない案件が多く、その継続フォローが、顧客への信頼と新規採用に繋がります。

販売第八課(名古屋)  
浦部 泰秀



入社以来、営業職に携わっていますが、一番大切に心掛けていることは「信用」という言葉になります。何に取り組むにしても人との結び付きが不可欠であり、今後も信用を第一にしながら社会貢献に努めてまいります。

販売第一課(大阪) 課長  
壺田 徳昭



営業所長という立場であるためチームワークを常に意識しております。少ない人数で効率良く仕事を進める為には全員の力を集結し、実力以上の実績を出すことが所長の手腕であると考えます。

福岡営業所 所長  
福井 博志

